

<b>ベッカー上級コースで合格しました！</b>	1	<b>海外での活躍のために</b>	14
C.Y さん FAR : 3回目、BEC : 2回目 REG : 3回目、AUD : 2回目		小野 真吾 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 3回目	
<b>ビジネス英語を本気で学びたい方にもおすすめの資格です</b>	2	<b>シニアでも続ければ合格</b>	15
R.A さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 2回目		Y.A さん FAR : 3回目、BEC : 4回目 REG : 2回目、AUD : 7回目	
<b>公認会計士資格の国際化へのチャレンジ</b>	3	<b>集中して勉強して短期合格する！</b>	16
水地 一彰 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 2回目		N.N さん FAR : 1回目、BEC : 3回目 REG : 1回目、AUD : 2回目	
<b>1日10分でも勉強し続けることが大切です。</b>	4	<b>海外駐在期間の目標として</b>	17
J.S さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目		T.U さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 4回目、AUD : 1回目	
<b>継続は力なり</b>	5	<b>英語で会計学を学んだ人にも良い講座だと思います</b>	18
チョウ セツセイ さん FAR : 3回目、BEC : 3回目 REG : 1回目、AUD : 4回目		M.O さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 2回目	
<b>TAC opens my career</b>	6	<b>来日、育児、仕事、家事、Working Motherとしての時間との戦い</b>	19
山田 久文 さん FAR : 1回目、BEC : 4回目 REG : 2回目、AUD : 4回目		郭 芳 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 3回目	
<b>「弱い自分に打ち勝つための精神力が試された1年5ヶ月」</b>	7	<b>足を折らずに済んだ2年間</b>	20
森 祐次郎 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目		前田 信太郎 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 2回目	
<b>5連敗からの4連勝で得た合格</b>	8	<b>人生で一番真面目に勉強しました。</b>	21
狩野 大 さん FAR : 1回目、BEC : 5回目 REG : 3回目、AUD : 1回目		C.N さん FAR : 1回目、BEC : 2回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	
<b>最後までたゆまぬ努力を重ねたら、自分との闘いの日々は、良い思い出にかわります</b>	9	<b>戦略的に、かつ弱点補強はコツコツと。</b>	22
草野 いづみ さん FAR : 3回目、BEC : 5回目 REG : 1回目、AUD : 4回目		K.T さん FAR : 3回目、BEC : 5回目 REG : 3回目、AUD : 6回目	
<b>40代。おそらく自分の人生の中でこれほどまでに一生懸命に勉強することは今後ないだろうと、そう思えるほど心血を注ぎ込みました。</b>	10	<b>学習を続ければ必ず合格出来ると思います！</b>	23
舛田 敏彰 さん FAR : 1回目、BEC : 2回目 REG : 1回目、AUD : 1回目		R.N さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目	
<b>早めの試験日設定で計画的に！</b>	11	<b>東南アジアからUSCPAを目指して</b>	24
山崎 真理子 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目		福崎 大輔さん FAR : 2回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 2回目	
<b>TACのテキストをマスターすることが重要</b>	12	<b>送付されてくる教材を積み上げるとその高さは、なるほど千時間は必要です。</b>	25
門司 亮平 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目		R.H さん FAR : 3回目、BEC : 1回目 REG : 2回目、AUD : 4回目	
<b>時間制約のなかで効率的に合格</b>	13	<b>Change the Life, Change the Organization, Change the World!</b>	26
村山 義尚 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 1回目		影山 豪 さん FAR : 1回目、BEC : 1回目 REG : 1回目、AUD : 3回目	



## ベッカー上級コースで合格しました！

C.Y さん

1984年生まれ  
早稲田大学

2015年4月 USCPA試験合格（グアム）  
FAR：77点（2015年2月／3回目）、BEC：76点（2014年11月／2回目）  
REG：82点（2015年4月／3回目）、AUD：89点（2015年4月／2回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

世界で通用するスキルを身に着けたいと思ったためです。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語知識：TOEIC®TEST 745点

会計知識はほとんどなく、むしろ非常に強い苦手意識を持っていました。

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他校での受講経験があったのですが、テキストが古くなっていたため、通用しないと思っていました。また、1度受験した結果、シミュレーション対策用にコンピューターでの学習ツールが必須だと痛感しました。他校でのテキストをアップデートするためには多額の費用がかかり、またコンピューターでの対策用教材は含まれておりませんでした。

TACは、他校・学習経験者割引を使うことで、Becker上級コース（現Becker30コース）を割安で受講することができました。そして教材に、Beckerテキスト、Beckerオンライン演習ソフト、直前対策教材も含まれていました。そのため金銭的にも中身的にも、非常に魅力的でしたのでTACの講座を選びました。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講義の内容です。私は他校での学習経験者でしたが、理解できていないことも多かったと思います。その点、TACでの講義は分かりやすく、より深く理解することができました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信です。学習期間は1年半程度です。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般：

Becker問題集の進捗状況についてはエクセルを利用して把握しました。そして間違えた内容や必ず暗記する内容は、ポストイットに書き込みました。試験直前は、問題を解くよりも、ポストイットを見直し要点を再確認しました。また日常でも問題を解く時は、30分一区切りの制約を設けて解きました。最後に、シミュレーションが苦手だったので、Beckerオンライン演習ソフトのシミュレーションを最低2回解きました。マルチプルチョイス問題は正解するまで解きなおしました。（optional問題は除く）

エクセル、ポストイット、30分一区切りの制約を活用し、最低限の問題をこなすようにした結果合格できるようになりました。

FAR：67→73→77

ものすごく苦手意識が強かったため、一番苦労しました。どうしても理解できない部分は、テキストに載っているexampleを理解するまで解きなおしました。驚いたことに、似たような問題が本番のシミュレーションに出題されラッキーでした。

BEC：74→76

BECのライティングは、内容をしっかり書く必要はないと思います。基本的な枠組みの中で、問題文を言い換えることに徹すれば、合格ラインに立てると思います。マルチプルチョイスがstrongerでも、ライティングがweakerだったら合格できない可能性があるのではないかなと今でも思いますので、ある程度は書く必要があると思います。

REG：66→74→82

TAXは好きな方でしたが、試験直前に見直さなかったら、重要なポイントの記憶がすっぱり抜けていました。再試験の時は、問題集を全問解きなおしました。BUSINESS LAWは授業で教えて頂いた重要要点をまとめたノートを自分で作りました。

AUD：58→89

初回受験の際、あまりの点数の悪さに驚き、これは何とかしないといけないと真剣に考え、再度全問解きなおし、Beckerテキストの該当部分とその前後のページを読み直しました。その際に網羅的に理解しようと努力しました。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は特に問題はありませんでした。

私は極端にあがりやすいタイプなので、毎日の勉強に30分タイマーを使うことで、カウントダウンの状況に慣れさせました。深呼吸をするなど、落ち着くために色々努力しました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は几帳面なタイプではありません。そこで、エクセルで進捗管理、ポストイットで弱点の管理、30分タイマーで時間管理を行ないながら問題をこなすことを意識して学習しました。まったく会計知識がなく、むしろ苦手意識の強かった私が合格できました。みなさんも、必ず合格できます。あきらめないでください。応援しています。



## ビジネス英語を本気で学びたい方にもおすすめの資格です

R.A さん

1980年生まれ  
慶應義塾大学 2004年卒業  
勤務先：米国系事業会社

2015年2月 USCPA試験合格（ニュー・ハンプシャー州）  
FAR：81点（2013年8月／1回目）、BEC：84点（2013年8月／1回目）  
REG：86点（2014年8月／1回目）、AUD：86点（2015年2月／2回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国系企業の日本法人で経理/財務の仕事をしています。日々の業務への理解を深めるためにも、米国本社の決算チームとの仕事をスムーズに行うためにも、いつかはU.S.CPA試験にチャレンジしたいと思っていました。そんな中、アメリカ本社からfinance managerが来日し、その際に受験を薦められたことがきっかけで勉強を始めました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記1級、税理士試験科目合格（簿記論・財務諸表論）  
会計事務所及び事業会社での会計業務経験 7年  
英語知識：TOEIC®TEST 965点、仕事では日常的に英語を使用

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本法人・アメリカ本社を含め同僚の多くがBeckerで合格しておりテキストや問題集の質の高さに定評があること、TAC公認会計士講座のノウハウがU.S.CPA講座にも活かされていることが大きな理由です。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TAC+Becker以外の教材を使わずに合格レベルに達することができるので、他社の教材には手を広げずにカリキュラムに従って勉強できました。大量の教材が送られてきてその量に圧倒されましたが、情報量は他校よりも多いものの、押さえておくべきポイントを講義で説明していただけたため、メリハリを付けることができたところもよかったです。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。既に知識がある分野は倍速で、初めて学ぶ分野は繰り返し講義を聞くなどして、自分のペースで勉強を進められたところがよかったです。通勤時間が往復3時間と長いので、講義のほとんどは電車の中で聞きました。勉強を始めてから最終合格までの期間はちょうど2年間です。そのうちFARに合格してからの6ヶ月間は勉強を中断していました。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般：テキストがよくまとまっているので、自分でビジネス・ローを除きまとめノートは作成しませんでした。Beckerの問題集はタブレット端末を使って一通り解いて、間違えた問題をもう一度解くようにしました。

FAR：税理士試験の勉強や実務を通じて基礎知識があったため、スムーズに勉強を進めることができました。公会計については初めての学習だったため、理解するまでに時間がかかりました。初めのうちは公会計が苦痛でしたが理解が進むにつれて楽しくなってきました、地方財政に関心を持つきっかけになりました。FARの勉強の7割は公会計に費やしたと思います。おかげ様で公会計を得点源にすることができました。

BEC：学習する分野がとても広くつかみどころがないので、深入りをせずに基本的な内容を確実にしておさえることを心掛けました。コーポレートガバナンスについては構成要素などの暗記が必要だったのでテキストの語呂合わせなどを活用して覚えられました。WCは直前対策講座がとてもためになりました。WCの部分はたった1コマですが、この講義で教わったことを忠実に実践することで合格できたのだと思います。

REG：国ごとの違いが会計や監査と違い大きいので、4科目の中で一番勉強時間がかかりました。この科目に合格した時が一番うれしかったです。税法はフォームの体系とBasisの考え方をしっかり理解することを心掛けました。ビジネス・ローについては唯一B5用紙20ページ程度のまとめノートを作り、作り終えた後はまとめノートと問題集のみで対応しました。暗記は後回しにして最後まで講義を聞くことで全体を俯瞰できたことがよかったです。

AUD：英文読解力が求められる科目で、MC問題の回りくどい問われ方に慣れるの必要性を感じたため、講義を受けた後は対応するBeckerの問題を一問一問丁寧に読んで勉強しました。学習初期の段階で監査報告書の無修正適正意見のひな型を電車の中でぶつぶつ唱えながら丸暗記したことで、その後の学習がスムーズになった気がします。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

BECとFARに合格後油断をしてしまい、仕事が急に忙しくなったことも重なってしばらく勉強を中断してしまいました。また、4科目目のAUDは講義を聞き終えないまま受験をして一度惨敗し、最終的に科目合格の有効期限である18ヶ月ギリギリで合格しました。科目合格失効のプレッシャーと戦いながらの受験は精神上良くなかったです。前の科目に合格するまで次の科目に全く手をつけなかったことも、合格が期限ギリギリになってしまった原因だと思います。

受験手続とライセンス取得手続を試験科目の一つに加えたいくらい、手続が複雑です。受験手続でわからないことがあり何度も電話やメールでご質問させていただきましたが、細かいところまで丁寧にサポートをしていただき、安心して手続を進めることができました。受講生専用サイトにも詳細な手順の書かれたマニュアルがあったため、とても助かりました。手続は最終的には自己責任でやらなければなりません、TACの手厚いサポートがなければもっと時間がかかっていたでしょうし、申請書類の記載漏れなども生じていたのではないかと思います。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAは国際的に認知されている資格ですので、保有をしていると海外の取引相手やグループ会社のメンバーなどと仕事をすると安心感を与えることができるのではないかと思います。日本の制度を英語で説明する場合も、日本のことだけをわかって説明するのと、アメリカの制度も大まかに把握した上で説明するのでは伝わりやすさが全然違います。また、会計や法律の用語を英語で学ぶので、今まで回りくどく説明していたことも2、3単語で伝えることができるようになるなど、ビジネスにおける英語でのコミュニケーションがとてもスムーズになりました。

科目合格の有効期限は18ヶ月と長いですが、油断をしているとすぐに期限を迎えてしまいます。ギリギリになったほうが実力を発揮できるという方であれば、1科目でも合格した後はできる限り短期決戦で残りの試験に挑むことをおすすめします。



# 公認会計士資格の国際化へのチャレンジ



## 水地 一彰 さん

1981年3月まれ  
明治大学 商学部 2003年卒業  
勤務先：Accounting firm (Big 4)  
公認会計士

2015年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）  
FAR：81点（2014年2月／1回目）、BEC：79点（2014年5月／1回目）  
REG：86点（2015年5月／2回目）、AUD：80点（2015年2月／2回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- 日本の公認会計士の登録が完了した時点で、取得した会計士資格の価値を見直したときに、当初公認会計士を志した時点で見込んでいた公認会計士の価値に比して大きく下回っていると感じ、この価値毀損分を何らかの形で埋め合わせをする必要があると考えたこと
- 日本の公認会計士のプレゼンスはグローバルの中では一般的に低いと言われており、ここで変わらないと自分も例外なく、グローバルの中でプレゼンスの低い会計士になりかねないとの危機感があったこと
- 日本の公認会計士資格は他国との資格の相互承認の制度が極めて限定的で、グローバル化が今後進んでいく中、資格そのものがガラパゴスになりかねないと思ったこと
- 仮に日本国がデフォルト等の理由で国が正常に機能しなくなった際に、国のインフラストラクチャーの上で成り立っている日本の公認会計士資格そのものの価値が無価値になるリスクがあること
- 以上の点から、日本国における公認会計士資格に不動産鑑定士、弁護士、司法書士、社会保険労務士等の他の資格を加えて、日本国内における業務の幅そのものを広げるよりもむしろ、U.S.CPAを学習し公認会計士資格をグローバルの水準に高めることで、今後ますます進展することが想定されるグローバル社会の中でより活躍できるチャンスがあると判断したこと

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士  
英語知識：TOEIC®TEST 700点代

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士試験の際にもTACを利用させていただきまして、相当の信頼を寄せていたので、他校を選ぶ考えはそもそもありませんでした。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

#### 教材

- 試験範囲は日本の公認会計士試験とほぼ同じで非常に広範ではあるものの、テキストが日本語英語の併記で非常によくまとまっており、英語の能力が必ずしも高いとは言えない私には非常に助かりました。
- Regulationの直前対策テキストは膨大な試験範囲が非常にコンパクトにまとめられており、試験当日だけで全体を3回もレビューすることができました。

#### 講師

- 授業は日本語を中心に進められ、非常に分かりやすく、授業で講師の方がハイライトされたところを中心に本試験でも出題されました。

#### カリキュラム

- 膨大な試験範囲を網羅的にかつ、合格点を取るのに十分な最小限度レベルに抑えており、非常に効率的に勉強できるカリキュラムであったと思います。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で学習しました。

学習期間：2013年6月～2015年5月（約2年）

妻の妊娠、出産、子育てと試験直前の長期の海外出張等と当初想定していなかった要因で受験期間が長引きましたが、家族の応援を力に変え、何とか合格することができました。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般：科目及び分野によって勉強開始前のバックグラウンドが異なるため、学習の濃淡は当然ありましたが、全体的にa.講義→b.講義の復習→c.問題演習と基本的なことを繰り返しました。TACより与えられた教材以外は使用していません。

FAR：企業会計は基本的に日本の公認会計士試験および日々の実務ですべてカバーされているため、講義を受けて、テキストを読み込み、知識を確認した程度です。

公会計については日本の公認会計士試験ではscope外の分野なので、TACの問題集を1.5回（全体的に1回、間違った問題のみ2回）演習しました。

BEC：Managerial accountingおよびCorporate governanceは基本的に日本の公認会計士試験でカバーされているため、講義を受けて、テキストを読み込み、知識を確認した程度です。

ITとeconomicsは日本の会計士試験のscope外の分野なので、TACの問題集を1回とBeckerの問題を奇数番号のみ（時間的な制約から）解きました。

AUD：Audit planning、risk assessment、audit procedureは日本の監査論と基本的には同じため、講義を受けてテキストを読み込み、知識を確認した程度です。

一方で、Audit reportとattestationは日本の監査論および監査実務とは大きく異なる部分もあり、TACの問題集とBeckerの演習問題をそれぞれ1回解きました。

REG：Taxはそもそも確定決算主義を前提としている日本の税制と根本的に異なるため、TACの問題集とBeckerの演習問題をそれぞれ1回解きました。

Business lawはボリュームに比して配点が低く、かつ、組織法は日本の会社法と基本的には同様なので、講義を受けて、テキストを読み込み、知識を確認した程度です。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

#### 受験手続のエピソード

- そもそも受験制度が極めて複雑なため、当然、受験手続も非常に煩雑です。TACの説明会に参加したり、分からない点はメールで複数回質問したりと、TACの助けがなければ、アプライすらできていないと思います。
- アプライしてから合格するまでの間にニューハンプシャー州のライセンス取得のrequirementが厳しくなっており、試験合格後に合格資格をワシントン州にトランスファーするとともにワシントン州でライセンスを申請するのに必要な単位を取得せざるを得ないような事態になりました。

#### 受験時のエピソード

- 卓上電卓を使用することに慣れていない方なら誰しもが感じることでしょうが、試験で使用するcalculatorが極めて使い勝手が悪く、これに起因する計算ミス及び時間の浪費は想定を著しく超えるものでした。このcalculatorに慣れるという観点からもBeckerの演習を重ねることは重要であると痛感しました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

USCPA試験は合格率の高さ、受験日程を自分で選択できるフレキシビリティの高さ、日本の公認会計士試験に比べると難問奇問の出題の少なさから、しばしばインターネット等では簡単な試験のように語られることも多いですが（事実私もそのような印象を持っていました）、その試験範囲は日本の会計士試験のそれと大きく変わらず非常に広範であり、試験で問われる内容も決して簡単なものばかりではなく、すべてを英語で読み解きしなければならないという英語を第一言語としない者のハンディキャップを鑑みると決して簡単な試験ではないというのが合格後の私の率直な感想です。しかし、以下のように我々を取り巻く環境が大きく変化している中で、こういった変化に対応するという観点及び膨大な試験範囲を勉強することで得た知識の活用という観点から何らかの犠牲を払ってでも十分にチャレンジする価値のある資格だと思います。

- 人口減少および国内マーケットのシュリンクから大企業のみならず、中堅企業までもグローバルにビジネスを展開することが企業の成長のための重要なファクターになってきており、この流れは今後ますます加速していくことが予想されること
- グローバル化が加速することを受けて、今後日本国内のみでトランザクションのすべてが完結することが限られた小規模企業のみになっていくことが想定されること
- 欧米グローバル企業のaccountingやtreasury部門で働いている者はCPA資格を保持していることが当たり前であり、日本の先進的な企業もこういったトレンドに徐々にシフトしつつあること
- 試験範囲が多岐に渡ることから勉強を通じて得られた知識はAccounting firmで働く者のみならず、特に企業のHead Quarterで働く者にとっても非常に有用であると思われること

# 1日10分でも勉強し続けることが大切です。



J.S さん

1986年生まれ

慶應義塾大学 2009年卒業

勤務先：日系事業会社 財務部

2015年5月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：88点（2015年5月／1回目）、BEC：90点（2015年5月／1回目）

REG：84点（2015年3月／1回目）、AUD：86点（2015年3月／1回目）

## Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

初海外出張のときに思うように英語で専門的な会計/法律のコミュニケーションが取れないといった苦い経験を味わったため、同じ轍は二度と踏むまいと米国公認会計士試験の受験を決めました。また、日商簿記1級合格後だったので、次の目標を見失い途方に暮れていたというもありました。

## Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記検定1級

英語知識：英検1級、TOEIC®TEST 970点

基本情報技術者も持っていました。

## Q3 TACをお選びいただいた理由は？

他校で以前日商簿記検定1級の講座を受講していましたが結局合格には至らず、その後TACに切り替えてから、その講義のわかりやすさから合格までたどり着けました。そういった経験から、米国公認会計士講座でもぜひTACにお世話になろうと思いました。

## Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

他校と比べて教材の多さに圧倒されますが、そこがTACの一番の良いところでした。TAC以外の教材は基本的には何も使っていません。これだけをやれば大丈夫という安心感がありました。

## Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信(DVD講座)を利用しました。2012年11月頃に受講開始し、結局2015年5月に全科目合格したので2年7ヶ月ほどかかりました。

## Q6 合格までの学習法（全般的なこと/科目別）

勉強期間中に、結婚、住宅購入、妻の出産、海外駐在と色々なことがありましたが、モチベーションを保つために、最低でも毎日必ず10分は机に向かうように心掛けました。かなりムラがありますが、平日は10分～3時間、土日は3時間～12時間ほど勉強するようにしていました。平均して1日2時間ほどであったと思います。土日に長時間勉強するのはツライものがありますが、母校の図書館にこもって、勉強友達とどちらが長く勉強してられるか競争したらゲーム感覚で楽しかったです（笑）。

【全般】

あまりにインプットに時間を掛けすぎたので、Beckerのソフトウェアは有効期限が切れてしまい、紙ベースの教材でしか勉強していませんでした。基本的には全科目とも、DVDの視聴→テキスト/問題集の関連する問題を解く（1周）→Beckerを回して累積正答率90%を目指す（1周～3周）→AICPAリリース問題（過去5年分～9年分）→直前対策講義を受ける、といった流れです。他に、必ず押さえないといけない分野であったり、弱点分野は、適宜問題集をコピーして繰り返しました。

【REG】

米国公認会計士の勉強を始めて1年ほど経ったころに、そのおかげかどうかはわかりませんが、米国駐在が決まりました。米国駐在が決まってからは、それまで勉強していたFARを一時中断して、業務に関連の深いIREGの勉強に切り替えました。賛否あると思いますが、今思えば業務の都合に合わせて勉強科目を変えたことがモチベーションの維持を助けました。もちろんそのおかげで業務も大分捗りま

した。Taxはまったくなじみの無い分野でしたが、講義の中で必ず押さえてくださいと言われた部分は、問題集をコピーし何度も繰り返すようにしました（特にForm 1040とBasis関連）。Business Lawも今まで一度も勉強したことが無い分野でしたが、講義の中で杉浦先生からA論点と言われた部分のみ重点的に繰り返しました。A論点以外から出題があったのはAICPAリリース問題、本試験を通して2～3題程しか記憶にありません。

【AUD】

最も実務に近い分野であり、その人の職務経験にかなり影響される科目であるとの印象を受けました。実務で監査対応を行っている方にとっては、実務から理論に収束させるといった帰納思考であったり、理論から実務での対応を考える演繹思考が働きやすいと思います。巷でよく言われているように、問題文中の英語の表現が微妙なニュアンスの理解を求めるものであったり、構文が複雑であったりはしますが、それでもパターンは限られているので、なぜこの選択肢が正解で、他の選択肢は誤っているのかを常に明確にしたうえで、Beckerの問題集を中心にして勉強して行けば必ず前進できるものと思います。

【FAR】

特に政府会計に多くの時間を割きました。政府会計は出題割合が少なくない割には、覚えていれば回答できる簡単な問題が多いので得点源になる為です。ただし、その分若干マニアックな分野からの出題も多く見かけたので手広くモレが無いように対応するのが肝要かと思います。FARは範囲が広く、深さもある科目なのでAICPAのリリース問題を解いてみて、手ごたえを感じたらすぐ受験したほうが良いです。あまり深追いしてしまうと、逆に基本的なことを忘れてしまい、効率的に得点を稼ぐことが出来なくなってしまう可能性があるからです。日本の簿記検定を学習した人からすれば、それとは違った角度から出題が多くされますが、簿記検定で培った基本的な理解を活かせば回答できる問題も数多くあります。

【BEC】

Written Communicationは3週間ほど前からそれなりに対策を立てました。具体的には、直前対策講義で紹介された日本人向けの解答例5題を毎日写経が如くパソコンで打ち込みました。本番では、3題とも250単語ほど書ききったので手ごたえがありました。キーワードを多く含まなければならないという基本を忘れてしまっていた為、試験終了後に焦りました。しかし、結果は思っていたよりよかったので、作文の分量も重要な評価基準であるのではないのでしょうか。MCは、日本の簿記検定を学習した人にとっては、工業簿記的な問題はほぼ同じような視点（計算）から出題がされるのでとっつきやすいかと思います。

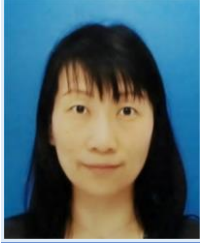
## Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

米国南部の州で受験しましたがプロメトリックセンターの方々は大変親切で好感が持てました。身分証明書はパスポートのみで大丈夫でした。ただし、会場は冷房が効きすぎて寒いので一枚羽織るものを持っていった方が良いでしょう。

## Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私自身が悪い例なのですが、90点を目指すような勉強はせずに、まず本試験を受けてみるといった姿勢が重要かと思います。問題の難易度はAICPAのリリース問題が一番本番に近い印象なので、リリース問題で確かな手ごたえを感じるレベルになったら、もう本試験を受けても善戦できると思います。米国公認会計士試験は簡単な試験ではなく、それなりの長期戦になりますが、重箱の隅をつつくようなことはしない非常に合理的な試験です。ライブイベントを乗り越えて、周囲の理解を得て勉強を進めていけば働きながらも必ず合格します。理解を示し協力してくれた妻と息子に感謝しています。





## 継続は力なり

チョウ セッセイ さん

首都大学東京 大学院 2007年卒業

2015年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：78点（2014年5月／3回目）、BEC：77点（2014年1月／3回目）

REG：77点（2013年11月／1回目）、AUD：91点（2015年5月／4回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

社会人になってからMBAを取得しましたが、数字に強くないと、ビジネスはうまく語れないと痛感し、やはり財務・会計の専門知識を強化したいと決心しました。いろいろと調べたところ、USCPAのことを知り、英語力には自信があるのでチャレンジしようと思いました。その後USCPA試験が日本国内で受験が可能になるとのニュースを聞き、TACで勉強を始めることにしました。それは2011年1月でした。全科目合格の4年5ヶ月も前のことでした。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

一応TOEICのスコアは900点を取ったことがありましたので、英語力はそこそこあると思いますが、会計知識はほとんどありませんでした。DebitもCreditも知らなかったぐらいでした。個人差があるかもしれませんが、いま思えば、英語力よりも会計知識があったほうが、合格が早いのではないかと思います。

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

類似した他校のコースと比較してみましたところ、TACは、初心者でも合格に向けて安心して始められるコースが用意されていたからです。これは私にとって最も重要なポイントでした。また、充実した教材や、通学可能な受講スタイル、継続再受講制度などのフォロー制度が充実していたことも理由として挙げられます。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師はみんな素晴らしい方です。熱心で、丁寧に講義されるだけでなく、タイムリーに出願情報や受験アドバイスを伝えてくださいました。特に印象に残ったのは内田先生と小泉先生です。内田先生の教え方は非常に上手で、まとめられた学習ノートにエッセンスが凝縮され、私にとってはまるでバイブルのような貴重な資料であり、効率よくTAXの勉強ができました。小泉先生は非常に親身になって相談に乗ってくださいました。最後の1科目AUDがなかなか合格できず、受験のラストチャンスでパスしないと、以前の合格科目が再受験になってしまうという状況を先生に伝えたら、非常に丁寧にいろいろな対策をアドバイスしてくださいました。その通りに実行し、ぎりぎりのタイミングで全科目が合格できました。小泉先生には感謝の気持ちがいっぱいです。

教材もカリキュラムも非常によくアレンジされており、教材と問題集のアップデートもタイムリーです。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

1年弱の通学で全コースを学習しましたが、受験のため、まず単位取得をしなければならない状況でしたので、通学以降は自己学習でした。通学中周りに本試験を受験し始めた方もいたようですが、初心者の自分はマイペースでまず受験に必要な単位を取得し、出願手続きを行い、受験を始めたのは2013年の5月でした。受験開始から合格まではちょうど2年になります。仕事をしながら、余暇はほぼすべて勉強しても、時間的に余裕はあまりなかったのも事実でした

が、いま思えば、もっと緊張感を持ってやれば、もうちょっと早く合格できたかもしれません。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

個人的にはREGのようにBeckerの問題集をやらずに受験して、1回で合格した科目もあり、4回受験してやっと合格できたAUDもありますが、基本的にTACの先生たちの指導要領に従い学習することが、合格への一番の近道だと思います。

崖っぷちになった最後のAUD受験に向け、先生のアドバイスに従い、再受講制度を利用していただきました。テキストもBecker問題集も最新のものを購入し、テキストを読み直し、通勤電車ではダウンロードした音声講義を聴き、TAC問題集を解き、PCでBeckerの問題と模擬テストを解いた結果、91点で合格しました。やはり①TACの先生の講義&アドバイス、②TACテキスト&問題集と、③Becker問題集、この3つが合格への近道となります。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査は通常の倍以上の時間がかかりました。原因は卒業した日本の大学に発行してもらった成績証明に単位認定の項目があり、これは来日前に中国の大学で習得した科目の単位が日本の大学で単位として認定されたものでした。米国の学歴審査機関からメールが来て、中国の大学の成績証明も必要と言われてしまいました。日本の大学に入学するために中国の大学は中退し卒業しなかったと説明しても、中国の大学の成績証明は求められました。仕方なく、家族にお願いして発行してもらいました。大学同士の合併があり、私の在籍時と異なる大学名になっており、また追求されたら大変だと思い、中国の大学の成績証明を追加提出したときに、大学の名称変更について説明しておきました。ドキドキしながら結果の連絡を待っていました。幸い無事に審査が終わりました。

また、本試験受験前にコーヒーを多めに飲んで、1回目のFAR試験中にトイレ休憩を取ってしまい、ちょっとした時間ロスになってしまいました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

継続は力なり！最初のスタート時点ではみんなやる気満々だと思いますが、自分はこの気持ちを保っていくことを意識していました。周りの合格者を見て、焦ることもありましたし、不合格の通知を受けて、落ち込むこともありましたが、努力は絶対報われると信じ、マイペースにいままで最も孤独な勉強をし続けてきました。結果が出たときに、本当に頑張ってきてよかったと思いました。努力した分だけ、喜びと達成感を味わえ、何よりもその分は確実に自分の糧となり、精神的にもより強くなったような気がします。

自分の経験が合格に向かっている学友たちに少しでも参考になれば、幸いです。



## TAC opens my career

### 山田 久文 さん

1990年生まれ  
日本大学 2013年卒業  
勤務先：大手監査法人

2015年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：81点（2013年10月／1回目）、BEC：79点（2015年2月／4回目）  
REG：78点（2014年4月／2回目）、AUD：82点（2014年5月／4回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学進学前に、日本の公認会計士試験に挑戦しようと思っておりましたが、大学在学中にドイツに交換留学をする機会をいただき、国際的に仕事をしたいと思うようになりました。

そして、留学から帰国後に日本の会計士、アメリカの会計士、ドイツの会計士と三つ選択肢を考えました。そこで、どの国で働くにしても必要なのは英語だと思い、U.S.CPA試験に挑戦しようと思を決断しました。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級とBATIC アカウナントレベル  
英語知識：TOEIC®TEST 500点くらい

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

会計系の試験勉強をするならTACが良いという評判がありましたし、自分のロールモデルとなる人が合格体験記に載っていて、そのような先輩のキャリアを歩みたいと思ったのがきっかけです。

また、U.S.CPA講座を受講する前に、BATICのSubject1のコースを受講しており、その時に阿辺先生の授業がわかりやすく、U.S.CPA講座の授業もわかりやすいだろうと思えたのが決め手となりました。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

挙げたらきりがありませんが、特に先生がよかったです。個人的には、草野先生、内田先生、田中先生の授業が印象に残っております。

草野先生からは試験に関わることのみならず、試験合格後にビジネスマンとしてどのような知識が必要になるのかという話を聞いて、授業の枠を超えた話を聞くことができました。

内田先生のTAXの授業はとても興味深く、一番好きになった科目でもあります。もともと、TAXに関して馴染みがなかったのですが、先生のおかげで、TAXに関して非常に興味を持てるようになりました。

田中先生は、自身の実務経験を踏まえた話がとても面白く、授業が毎回楽しみでした。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学と通信DVDの両方で学習していました。  
学習期間は2年くらいです。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般的にですが、科目ごとにまとめノートを作りました。担当の先生によってはまとめノートやレジュメを頂ける先生がいたので、それ以外の科目は自分で作りました。

そして、そのまとめノートやレジュメを短時間で全論点を何度も眺めるようにして記憶に定着させるようにしていました。

勉強のサイクルとしては、授業→問題集を1周→Becker Pass masterでランダム30問（全論点を含む）くらいを解く→正答率が低い論点を教科書、TACの問題集で復習という感じでした。

科目別

[FAR]

試験範囲は広範で覚えることがたくさんありますが、TACの教科

書と問題集をしっかりとやれば合格できる科目だと思っておりました。実際、一緒に授業を受けていた方はTACの教科書と問題集の勉強のみで合格された方が多かったです。

[BEC]

WC（英文の記述問題）が少しやっかひでした。WC対策だけだと実際に文章が書けるかどうか不安でしたので、AICPAのリリース問題を自分なりに解答をつくって、英語ができる人に添削してもらいました。今では、WCの添削講座があるようですね。

ただ、試験はコンピューター試験なので、WCで大きく論点を外さず書くことと、MC（択一式）問題で大きく外さなければ合格できると思っておりました。

要は、バランスよく勉強するのが一番といえる科目だった気がします。

[REG]

学習法としては、直前対策まとめのレジュメとフォーム集を見て、数字がどのような流れで動くのかということ意識して勉強しました。

あと試験対策としては、タイムマネージメントが特に重要だと思おりました。

私の場合、1回目の受験では解かなくてもいいMC問題も解いてしまい、シミュレーション問題でほとんど時間が取れない状態になり、74点でFailしてしまいました。

試験の特性上、問題が難しくなれば合格に近づくとおられていますが、しっかり解く問題か捨てる問題かの線引きは重要かもしれません。

[AUD]

AUDは一番苦戦した科目でした。3度の不合格もあり、問題を解くときに答えを覚えてしまっていると思ったので、一度他の科目を受験してから1から勉強直すことにしました。

また、AUDはMC問題の英文解釈が少し難しいように思おりました。少し、意味を取り間違えると間違った解答に辿り着いてしまうので、関係代名詞などの多い文は、特に主語が何で、何が問われているのかを常に意識して問題を解くようにしていました。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続に関しては、交換留学をしていた関係で、留学時の単位付与が特殊な形で行われていたため、教務課の方にお願ひして成績証明書に英文コメントを追加で頂いてもらい対応することで乗り切れました。

受験時のエピソードとしては、試験室入室前に指紋認証をしますが、自分の指紋がなかなか認識されず時間がかかった記憶があります。それと、試験中の休憩で入室する時も指紋認証で時間がかかって、タイムロスをしたことが何回もありました。

ですので乾燥肌で指紋認証されにくいと自覚のある方は、ハンドクリームを試験数日前からしっかり塗り込んでおくことをおススメします。（笑）

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私の場合、試験勉強に十分時間を充てることができたにもかかわらず、結果がなかなかでず、就職もしていないというプレッシャーに何度も押しつぶされそうな時がありました。でも、自分の周りに違う資格試験で頑張っている友達がいたので、最後まで諦めずに学習し合格することができました。みなさんの周りにも違う資格試験や仕事で頑張っている方がたくさんいらっしゃると思うので、お互い切磋琢磨できる仲間を作って、最後まで頑張りぬいてください。U.S.CPA試験合格後には、知識だけでなく、自信もつくと思おります。

出来る限り前向きに考え、絶対に自分なら合格できるという強い意志を持って勉強を頑張ってください。

# 「弱い自分に打ち勝つための精神力が試された1年5ヶ月」



## 森 祐次郎 さん

1988年7月生まれ  
Soka University of America  
勤務先：外資系建設資材メーカー  
現在フィリピン・マニラに駐在しており、  
9月からアメリカに転勤予定

2015年6月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：84点（2015年1月／1回目）、BEC：84点（2015年5月／1回目）  
REG：89点（2014年10月／1回目）、AUD：85点（2015年4月／1回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

ある国際機関に勤務している知人（日本の公認会計士とU.S.CPAを取得）がいて、国際ビジネスの場でスキルアップしていくためには、基本スキルとして会計知識・税務知識を身につけておくこととU.S.CPAなどの国際的に通用する資格を取得することが大事だと何ったのがきっかけです。

現在外資系建設資材メーカーのフィリピン支社経理部で働いており、フィリピンの公用語は英語なので財務諸表などは全て英語で作成しています。CPAの勉強を始める前は日商簿記2級を取得していたのですが、更に専門性を高め将来的なキャリアアップも見据えながら、U.S.CPAの資格の取得を意識するようになりました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級  
英語知識：米国の4年制大学を卒業しており、CPAの試験勉強には特に支障なかった。

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

まず書店で発売されている参考書を見た際に、これを短時間で効率的に合格するには独学では厳しいなと思いました。他のU.S.CPA指導校とも比較したのですが、TACはインプットの授業だけで99回の講義があり一見回数が多いのですが、その分講師の方がずっとしゃべりながら内容を解説してくれるため、仕事で疲れていても講義DVDを見ていれば頭に入ってくるので、自分一人でテキストに向かうよりは集中できると思いました。また回数が多い分U.S.CPA試験の幅広い試験範囲をしっかりと網羅しているので、それも良かったと思います。あとBecker教材を利用できるのは、早期合格への近道であることは間違いありません。Beckerは本試験に非常に良く似ている問題を分野ごとにかなり詳しく出題しているので、試験対策としてとても利用価値がありました。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講義の順番が（FAR→BEC→REG→AUD）となっており、会計の基礎から学んでいくという構成と講義回数は99回ありますが、講義内容は重要ポイントや要点がうまくまとまっていて非常に良かったです。

授業についてはTAXの内田講師（17回）の授業が特にインパクトがありました。とても熱意のある先生でした。かなり学習量も多い科目でしたが、負けないように自分を奮い立たせながら受講していました。

また問題はBeckerのオンライン演習ソフトを中心に解いていたのですが、このソフトは素晴らしいと思いました。問題の形式もそっくりですし、アップデートも随時行われますので、最新の傾向を捕らえることができましたと思います。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

学習期間は1年5ヶ月。  
海外勤務でしたのでDVD通信での学習です。  
追加単位の試験は休暇で一時帰国した際に受験していました。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

FARの学習法：ボリュームが非常に多い科目で、BECやAUDの基礎となる科目でもあることから、早めに学習をしてしまおうと考えていました。仕事でも経理をやっているので比較的理解は早かったと思いますが、それでもやはり公会計は苦戦しましたね。講義内容を理解したあとはBeckerの問題をオンラインでひたすら解いていきました。Beckerの問題数もかなりありますので、やってもやってもまだあるのか、というイメージでした。

BECの学習法：大学で経済学を専攻していたこともあり比較的スムーズに学習できました。エッセイ（記述問題）についても大学時代のノウハウでさほど問題はなかったのですが、それでも試験時間はかなりタイトだと思います。まずはマルチプルチョイスの知識をしっかり身につけることが大事で、マルチプルチョイスでの知識があるからこそ内容のあるエッセイも書くことができると思います。

REGの学習法：講義と並行して厳選問題集を1問飛ばして解いていきました。自分の日常業務とは一番離れているため、理解するの一番大変な科目でした。それもこの科目が一番初めに合格してしまおうと思ったのですが、結果的にこの科目が一番得点が高かったのは正直意外でした。

AUDの学習法：仕事では普段は監査をされる側なのであまりなじみがない科目でしたが、勉強する中で監査人は企業決算のこういところを見ているんだ、ということを知ることでも楽しく勉強することができました。勉強しながら自分の実務に役立つことを発見できたのはよかったです。逆にもし自分が会計士として働くとなるとこんなことをするのだなと思い浮かべながら勉強していました。

またAUDはFAR同様にBeckerの問題をひたすら解いていきました。AUDの問題は文章の読解力が必要になりますので、他の科目に比べ英語力も必要であると思います。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はTACの『受講生サイト』に記載されていた通りに手続を進めましたので特に問題はありませんでした。ただ事前要件としての単位取得が非常に面倒でしたので、これがもっと楽になればU.S.CPA試験も更にメジャーになるのでしょうか。本試験は東京で受験しましたが、やはり長丁場の試験なので集中力を維持するためにも、休憩をどのタイミングで取るかが大事になると思います。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この資格を目指すのは社会人の方が多いと思いますが、一番の課題はやはり何と言ってもタイムマネジメントだと思います。仕事中心の生活の中で、いかに学習時間を捻出するかに尽きると思います。というのもU.S.CPAは出題範囲はとても広いですが、それをしっかり学習さえすれば必ず結果はついてくる試験だと思います。言い換えると勉強方法さえ間違えなければ、勉強にかけた時間と合格率は比例してくると思います。

自分の場合だと、通勤中はタブレット上でBecker問題を解き、仕事はできるだけ早く切り上げて学習することを心がけていました。特に試験直前はお昼休憩中も問題を解いていました。そう考えると学生は本当に幸せですね。勉強が仕事なのでから。社会人になると繁忙期もあり、なかなか時間が取れないこともありますが、毎日少しずつでもいいですから勉強する時間を作り出すことが大切です。この資格は1年半しっかり覚悟を決めて学習すれば必ず合格できるものだと思います。





## 5 連敗からの 4 連勝で得た合格

### 狩野 大 さん

1974年生まれ  
東北大学 経済学部 1997年卒業  
勤務先：事業会社  
日商簿記1級、税理士科目合格（財表）、  
BATIC 864ポイント

2015年8月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）  
FAR：83点（2014年10月／1回目）、BEC：84点（2015年5月／5回目）  
REG：80点（2015年2月／3回目）、AUD：82点（2015年8月／1回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

日系の事業会社の経理部に所属しております。会社は東証と米国市場にも並行上場しておりました。そのためUSGAAPの知識を高める必要がありました。

また、当時の直属の上司がUSCPAを持っており、資格取得に対するモチベーションはありました。日商簿記1級の取得後、税理士の勉強に進んだのですが、3年間勉強して1科目しか合格できませんでした。そちらを断念すると同時にUSCPAの勉強を始めました。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

学習開始時の英語力は低くTOEICで550点でした。合格時は710点でした。

BECのWritten Communication(以後WC)におけるwritingの勉強を除いてこの期間には特段英語の勉強はしておりません。

会計の知識は日商簿記1級、税理士科目合格（財務諸表論）でした。FARについてはこれらの資格勉強で得た日本基準の会計の知識が非常に役に立ちました。

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

当該資格で有名なA社とTACとで悩みました。しかし、日商簿記1級や税理士の科目合格をTACにお世話になった事、A社よりもコースの価格設定が3割程度安価な上に講義数は1.5倍くらい設けていること、問題演習には全米合格者の多数が使用しているBecker教材が利用できたこと、そして意外と重要なのが、会社から最寄のTACが近く、自習室を気軽に利用できた事が大きいと思います（静かな勉強スペースの確保は長い学習過程において皆さんも大きな課題となるはずです）。TACは都内に多数の教室がありましたので、有効活用させて頂きました。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACの講座では各科目で原則講師が異なります。その中に数人インターネットの書き込みサイト等でも有名な人気講師がいらっしゃいました。

これらの人気講師は教え方が上手なのはもちろんの事、すごい熱意と迫力で講義をしてくれるので受ける側も思わずのめり込んで、興味が無い分野でも興味を抱かせる話術をお持ちです。またUSCPAの試験は合格するのに試験の解き方のポイントをどれだけおさえているかが重要であり、そこを詳しく教えてくれます。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

入学してから最初の半年程度は主に教室講義、会社での仕事が多忙になってきて後半の科目に進めなくなり、その後1年半程度のブランクがありました。その後は再受講制度を利用してWEB通信で受講しました。WEB通信は1.2倍速で講義が聞けること、自分の空いた時間にコマ切れに勉強できるので時間の無い私にとっては非常に有用でした。

ブランクの期間やあまり本腰の入らなかつた期間も含めると入学から合格まで4年弱かかりました。さすがに時間数は把握できませんでした。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

私が合格までに4年弱かかってしまった最大の原因はBECでした。FARは日本の会計の知識があったためか、講義を一通り受講しただけでBecker問題も半分くらいしか解きませんでしたが合格できまし

た。（後日、科目合格失効）私の失敗の原因の1つはここにありました。FARが少ない勉強で受かったので、この資格自体をなめて取り組んでしまいました。そのため、時間の無い中で中途半端にBECの勉強を続け計4回BECに落ちてしまいました。

理由はWCでした。後から考えると英語が苦手な私はWCが毎回15点配点のところ0点が1点しか得点できていなかったと思います。

米国では英語のメモの書き方にも日本と違い一定のルールがあるという事をTACの講義を通じて知り、TACのWC添削コースを受講しました。

ただ上記の通りBECに連続4回不合格になってしまったため気分を変えてREGの勉強を始めました。このREGの講師がお二人とも素晴らしい講義をしてくださいました。

REGの勉強を通じ再びモチベーションが湧いてきました。ボリュームの多いREGですがテレビドラマよりも熱く、のめり込める場面があります。

これらの講師との出会いによって、そろそろ合格断念かという流れが一変し、そこからはスラスラと1ターム1科目で4ターム連続して合格する事ができました。

最後の科目であるAUDは計算が全く無い上に、英文の解釈が難しく日本人合格率が一番低いと言われておりますが、3カ月間心を鬼にして集中し、また3科目合格で得たテクニックを最大限に用い一発合格できました。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

この試験の解き方のポイントの一つに時間配分が挙げられます。REGの受験の際です。REGをある程度勉強しあるタームの末日に受けました。結果は74点でした。私は「なんだ1点だけ足りなかった、運が悪かった。74点取れているのだから数点分の勉強をして直ぐにでも試験を受けよう」と考え、1カ月後の翌タームの最初の頃に受験しました。

結果、MCの解答に慎重になり過ぎて時間配分を誤りシミュレーションに十分な時間が残らないという事態になりました。結果は54点です。これほど低い点数は初めてでした。

このときいかに時間配分が重要かを思い知らされました。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの講師がいつも講義で話されている事と同じです。この資格はテキストと問題集を一通り行ったから受かるという類の試験では無いと思いました。度々の不合格の経験も踏まえ、幾つか主要な合格点を取るポイントを挙げさせていただきます。

まず、科目内で重要論点がどこかをTACの講師が教えてくれます。この落とせない重要論点の中で苦手分野を作らない事です。

次に時間配分です。BEC以外はシミュレーションが配点の40%です。マルチプルチョイス(以下MC)では、私は英語が苦手でしたので、問題文と選択肢の両方が一定のボリューム以上の文量でしたら問題を一切読まずに適当にチェックを入れて次に進みました。また、3分考えて解けない問題も次に進みました。往々にしてそのような問題は採点されないケースが多いように個人的には感じました。

逆にTAC教材やBecker教材で何度も見かける頻出論点が出たときは確実に正解する事が重要です。

長く書いてしまいましたが、端的に言うと、MCは難問・奇問は全て捨ててでも、シミュレーションに十分な時間(1.5H目安)を配分する事が重要だと思いました。MCで一定レベル以上得点していれば勝負は全てシミュレーションだと思います。

私は英語が苦手な上に年齢も40歳を超えたためか、問題文は二度読みしないと頭に入りませんでした。そのため試験場では常に時間との戦いでした。それを克服できたのは、MCで長文問題・難問・奇問をバツサリ捨てる思い切りの良さだったと思います。

また、そういう試験テクニックを教えて下さるのもTACの素晴らしい講師陣の方々でした。



## 最後までたゆまぬ努力を重ねたら、自分との闘いの日々は、良い思い出にかわります

### 草野 いつみ さん

1982年生まれ  
桜美林大学卒業

2015年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：77点（2014年2月／3回目）、BEC：80点（2015年4月／5回目）  
REG：78点（2015年8月／1回目）、AUD：83点（2015年5月／4回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

新卒で金融機関に就職したこともあり、英語に繋がる資格として、U.S.CPAの存在を知ることになりました。英語がもともと好きだったことと、国際的で専門的な職業へ憧れていたことからU.S.CPAにチャレンジすることにしました。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語は日常会話をする程度です。また日商簿記2級は持っていましたが、忘れてしまっていたので勉強を開始したときの会計知識はゼロに近い状態でした。

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

勤務先の通信教育で、TACの教材を使い日商簿記3・2級を学習しました。

TACで学習をしてみて、良心的で信頼できると思っていましたのでU.S.CPAにチャレンジしようと思った際には迷わずTACを選びました。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

一番は、講師の方々の人柄です。それから、読みやすいメリハリのあるバイリンガルのTAC教材です。FARやREGのTAXの問題集は最小限の問題数で試験範囲のパターン練習が出来るよう構成されているところもよかったです。

また5年間継続再受講制度は働く人の強い味方だと思います。おかげさまで、働きながら、残業しながらの状態でも、無理なく学習を進められました。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通学です。本格的に勉強をはじめてからは2年半で合格までたどり着きました。

2010年から2011年まで週末はフリーパス制度を利用して生講義に出席し、会社が終わった後はTACの校舎でDVDを視聴してインプットをできるだけ多く行いました。2012年に出席に必要な単位をすべて取得しました。

2012年末に会社を退職し、2013年から2015年までは5年間継続再受講制度を利用して講義を受けつつ自宅最寄の立川校で自習学習をする日々でした。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

テキストを読み込んで理解し、その後問題演習でスピードをつけるといった流れで学習しました。特にBEC、AUD、REGについては、できるだけ早くにBECKERのオンライン演習ソフトで本番を想定した練習をすることが大事だと思います。

FARは計算の理解を重視しました。小泉先生の授業は理解しやすかったです。テキストを理解し、TACの問題集を理解できるまで解く。BECKERはほぼ手をつけませんでした。TACの問題集だけで合格できました。

BECはWCがカギだと思います。MCはテキストとTAC問題集を理解重視で進めました。WC対策として、問われそうな箇所を確認して、科目ごとの重要箇所を英文でパソコンに打ち込みました。WCの雛形をおぼえ、時間を計り、問題を読み、パソコンに解答を打ち込む、という作業を繰り返しました。MCだけでの合格は結構厳しいのではと思います。

MC対策として、ECOでは草野先生が落としてはいけない問題を指摘してくださっていたので、注意して取り組みました。杉浦先生がランク別に論点を分けてくださっていたので、CGはA論点を中心に意識して学習しました。BECのMCは広く浅く出題されるので、知識を貪欲に吸収することを心掛け、解説をよく読み、周辺知識を習得するようにしました。

AUDは正確にテキストの内容を読み取って、覚える作業を大切にしました。また、監査報告書の内容をエクセルシートにまとめ、電車で見ました。自分の手で作ってみると、理解も深まり、早く覚えると思います。

REGはBLを効率よく学習することが大事だと思います。テキストから自分なりのまとめノートをつくり暗記しました。アウトプットはBECKERオンライン演習ソフトを解き、解けないものはその場で覚えました。ただしBLはあまり手を広げすぎないようにしました。TAXは内田先生の講義をしっかりと理解し、講義と並行してTBSと厳選問題集を言われた通りに行いました。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

2度ほどハプニングに遭いました。試験制度変更のため、メイン州からアラスカ州に出願州を移す際、システム上での作業ができなくなってしまい、真夜中に現地へ電話やメールをしたりしました。またExpire（失効日）前日に最後のREGを受ける際、日本受験料の支払い画面がフリーズしてしまい、現地へメールを送ったりしました。日本では起こらなようなことが起きてしまいましたがこれらの機会は、度胸をつけてくれますし、今ではよい思い出となっています。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

勉強を始めたころは、内容を理解するのも大変でしたし、自分にあった勉強方法もわからず、右も左もわからないといった感じでした。最初の2科目を乗り切ったあたりから、理解のベースがあがり、自分なりの勉強方法もでき、少しずつ自信が持てたのを覚えています。最後のREGは3ヶ月で乗り切れました。勉強を始めたころは、まさか自分が1科目でも1発合格できるなんて思ってもみなかったです。

地道な繰り返し、勉強方法の試行錯誤、出願時のハプニングなど、最後は良い思い出に変えてやる!!くらいの意気込みでいったら、結果はついてくるものだと思います。

試験制度が変わりやすいので、今出願できる州で出願し、今ライセンス取得が可能な州で取得し、といったように将来を見据えて計画を練り、そして行動してしていくことが大事だと思います。学習、受験と進む中で、多少の制度変更は当たり前と思って目標にコミットして動き続けてください。



## 40代。おそらく自分の人生の中でこれほどまでに一生懸命に勉強することは今後ないだろうと、そう思えるほど心血を注ぎ込みました。



**舩田 敏彰** さん

勤務先：日系企業 管理部門

2015年8月 USCPA試験合格（モンタナ州）

FAR：90点（2015年5月／1回目）、BEC：76点（2015年2月／2回目）

REG：76点（2014年8月／1回目）、AUD：82点（2015年8月／1回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

グローバル化が急速に進む中で、そう遠くない将来の内に英語でビジネス展開が出来る力が必ず必要になるという危機感を抱いていました。単純に語学としての英語を知っているビジネスパーソンに留まるのではなく、今後もビジネスマンとして生きていく上で、英語で何の仕事が出来るか、何を得意分野として持てるか、を考えた時に、U.S.CPAの勉強がきっと役に立つと考えたため、チャレンジしようと思いました。また、英語力習得のための良い手段にもなると考え、勉強を開始することとしました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

高校卒業以来まともな英語学習をしてきませんでしたので、おそらく全ての日本人受験者の中で最も低い層の英語力だったと思います。公認会計士の資格を所持していますので、会計知識については問題ありませんでした。

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

かなり以前（1990年代）になりますが、公認会計士の二次試験や三次試験の時にTACの教材を利用したことがあり、その良さについては体感していました。TACのU.S.CPA教材は他校のそれと比較してボリュームがあるから大変、という噂話も聞いていましたが、むしろ漏れのない勉強をすることが出来ると考え、TACに決めました。

合格のために最も適した教材はどれか、を主眼に比較検討していましたので、受講料が高いか安いかはほとんど考慮しませんでした。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

基本的に、TACの教材（ベッカー含む）のみの利用で合格できましたので、受験生にとって何ら心配のない講座ではないかと思えます。ベッカーの模試が本試験の画面にそっくりなことも受験に安心感を与えてくれました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信講座で学習しました。  
学習期間は2年4ヶ月で、平均すると月あたり100時間ほど勉強しました。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

勉強開始時期は2013年5月で、それからおよそ1年間は4科目通してのインプットのみに時間を充てました。具体的には講義DVDの視聴とテキストの通読です。その期間、問題集は一切開かず、ただひたすら内容の理解に努めました。テキストには日本語、英語の両方が書かれていますが、私にとってこのU.S.CPAの勉強は英語力習得に向けての学習という側面もあったため、日本語の説明は理解できても、必ず英文にも目を通し、意味が読解できるまで何度も読みました。インプットのみで1年間というのは時間がかかり過ぎのような感じもしますが、後から振り返ってみると、絶対的な英語力が乏しかった私にとって、この英文を繰り返し読んだということが、その後問題を解いていく上での読解力向上の基礎になったと思っています。

一通りインプットのための勉強が終了し、おおよそそのような知識が必要かというものがわかった段階で、2014年4月からはアウトプット中心の勉強に切り替えました。基本的な勉強の仕方は各科目とも共通で、自前の要点ノートを作成⇒問題演習1回目⇒要点ノートへの追加⇒演習2回目⇒ノート追加⇒演習…といったことを繰り返しました。問題演習の回数は、ベッカーの演習問題も含め各科目とも大体4回～5回です。

本試験3週間程度前からは、AICPAリリース問題（過去5～6年分）も解き始め、2週間前になるとベッカーの模試を解きました。また、これと同じ時期に直前までDVDを視聴し、知識習熟度の確認をしました。

勉強を継続的に実践していくための仕組みや工夫として、私は計画を綿密に組むことを重視しました。そして、その計画と実際の進捗を定期的に比較し、遅れや漏れが生じないようコントロールしながら勉強を進めていきました。

以上が各科目に共通した勉強法ですが、科目別に取った対応として特徴的なことを挙げれば次の通りです。

【FAR】FARについては、公認会計の分野は内田先生の直対まとめを活用し、そこに書かれていない論点で個人的に気になった点については余白にどんどん書き込んでいきました。最終的に、自分用に使い勝手の良いものになったと思います。

【REG】こちら、TAXの分野は内田先生の直対まとめを活用しました。BLについては杉浦先生のおっしゃったAランクの論点を中心に学習しました。ベッカーの問題演習については、REG以外の3科目については解きましたが、

REGについては解かず、TACの問題演習のみで試験に臨みました。

【BEC】BECは、WCの箇所点数を取ることは難しいと思っていましたので、自分で想定問題を作り、そこで書いた解答を暗記することにしました。作成した想定問答の数は25問程度です。本試験の問題はもちろん想定問題と異なりましたが、出題された3問中2問については多少論点がかぶっていたため、暗記した文章をそのまま入力しました。結果的にギリギリ合格してしまいましたので、運もよかったのだらうと思います。

【AUD】AUDについては特にありません。論点まとめノートを作成し、問題を演習することで試験に臨みました。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続を進めていく中で、いくつかの事務トラブルがありました。詳細は省略しますが、履歴審査機関であるFACSとの間で1回、願書提出時に公証人役場との間で1回、NTSを受領する際にNASBAとの間で1回、それぞれ事務がスムーズに行かないことがありました。いずれも、私自身に落ち度があったものでは、相手を責める気持ちばかりが膨らんでストレスを感じましたが、一切のトラブルを解決する責任は自分自身にあると心を切り替え、1つ1つ丁寧に対応しました。

受験時のエピソードですが、暑さ・寒さ対策はきちんとした方が良いと思います。個人差はあるのですが、夏場に受験した時、会場の中のエアコンが効きすぎていて感じ、集中力を保つのにやや苦しみました。途中で休憩し、衣類を取りに行くという選択肢もありますが、そのためだけに時間を数分間使うというのはやはり勿体無いです。細かいことではありますが、万端の体制で臨めばその分試験に集中できますので、この辺りは気を付けた方が良いでしょう。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

個人的には、この試験は勉強そのものに関する知識以前に、英語の読解力が備わっていないと合格はおろか日々勉強を続けていくこと自体難しいと思います。この点、U.S.CPAの勉強を始めようと思われている方のほとんどが、相応のレベルを最初から有していると思われるので、問題はないと思いますが、もし、私のように英語力にささか不安があるという方であれば、相当の時間がかかることを覚悟しなければならないと思います。私の場合、幸いにも4科目中3科目について1度目の受験で合格することが出来ましたが、結果的に勉強期間はトータルで2年4ヶ月かかりました。もし、最初からある程度の読解力が備わっていたならば、おそらくこの半分程度の期間で完了することが出来ただろうと思っているほどです。

勉強開始時点で英語力に不安がある方は、最初からある程度長期戦になるということを念頭に置いた上で、かつ、その勉強をしているさなかにあつては、例えばスムーズに問題文を読解出来なかったとしても、それでクヨクヨするのはなく、日々の小さな積み重ねにより自分の英語力も徐々に向上している、そう前向きに感じる心を常に持ち続けることも大事ではないかと思えます。

試験そのものに関する知識面については、各科目とも確かに範囲は広いのですが、難しいことを問われることは決してないという印象を強く持ちました。このため、TACのテキストに沿って忠実に知識を習得していけば、ほとんどの問題に対応可能だと思われます。中には見たこともないような問題に出くわすこともありませんが、満点を目指す必要もないので、そのような問題に対してはあまり気をとらわれる必要もないと思います。ただし、本試験の問題の問われ方はTACやベッカーのそれと同じではないということに留意しておく必要はあると思います。一見すると、テキストや問題集で見たことがないから飛ばして良い問題と判断してしまいがちですが、実は同じ論点を右から見るか左から見るかの違いであって問うていることは同じ、という問題も多々あったように思えます。やはり、単にうわべだけの知識を追っかけるのではなく、本質的な中身のところまで理解しておく必要があるのだと思います。

最後になりますが、社会人の場合は平日の夜（あるいは朝）と休日が勉強に充てられる時間になると思います。多くの受験生がそうでしょうが、私の場合も平日であれば少なくとも30分、気持ちが乗れば3時間ほど勉強し、また、休日であれば最低でも6時間の勉強時間を確保するよう、努力しました。

日々、勉強を継続していくことは決して簡単なことではなく、むしろ簡単ではないからこそ、途中で挫折し、目標達成を諦める方も多いのだと思います。私も、2年4ヶ月という決して短くない受験勉強生活の中で、本当に何度も諦めようと思ひ、くじけそうになりました。それでも結果的に最後までやり通すことが出来たのは、月並みな言い方になりますが、何となくでも夢を叶えたいという気持ちを持ち続けることが出来たからではないかと思えます。

このU.S.CPAの勉強をしようと思立ったのは40歳をとうに過ぎてからのことでした。勉強をしながら、おそらく自分の人生の中でこれほどまでに一生懸命に勉強することは今後ないだろうと、そう思えるほど心血を注ぎ込みました。最後の4科目目の合格を知った瞬間、ただひたすら安堵の気持ちが広がりました。勉強を続けてきて良かったと、心の底から思うことが出来ました。為せば成る、夢は叶う、きっと願いは実現する、そう信じていることが出来ました。

これから勉強を始めようかどうか迷っている方、あるいは既に勉強中の方、いろいろ思い悩むこともあるかも知れませんが、信念を持ち続ければきっと合格を勝ち得るものと信じています。

絶対に合格できる試験です。頑張ってください。





## 早めの試験日設定で計画的に！

### 山崎 真理子 さん

玉川大学・Selkirk College  
勤務先：外資小売経理部から監査法人へ転職

2015年8月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：78点（2014年8月／1回目）、BEC：84点（2015年2月／1回目）  
REG：88点（2015年5月／1回目）、AUD：76点（2015年8月／1回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

英語が好きでグローバルな環境で働きたいと思ったので興味を持ちました。USCPAは外資系企業の経理の中で活躍していくのに役立つ資格であることにも魅力を感じました。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級  
英語知識：TOEIC®TEST 900点

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

簿記2級コースでお世話になり、すごく分かりやすかったことが最初のきっかけです。USCPAコースも他校と比べて授業数が多く、細かなサポートもしてくれるので選びました。また、都心部の駅近辺に多数校舎があったので、自習室を有効利用できると思いました。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

冗談も交えながらのしっかりと全て計算された分かりやすい授業が非常に良かった点です。出題頻度の高いもの低いものによるメリハリのある授業のおかげで、効果的に学習できました。お陰様で最小限の努力で最大限の力を出すことができました。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

元々通学で申し込みましたが、その時は通いきれず問題も全く解いておらず、後に通信で再受講しました。学習期間はおよそ1年半です。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全般的なこと）

試験期間中は平日出勤前2時間と週末は終日勉強しました。授業を見ながら問題集1周目を解き、全て見終わってから2周目をまとめて解きました。その後TAX以外はBeckerを解ける限り解きましたが（マルチプルチョイス3～5周、Simulation 1～2周）、optional問題は手をつけませんでした。TACの問題集もBeckerも、すぐに考えて分からない問題は深く諦めてすぐに解説を読み直しました。そこから必要に応じて教科書に戻りました。

（FAR）

1科目目であること、計算が苦手であること、そしてとにかくボリュームが膨大だったので一番苦労しました。忘れては復習しての繰り返しで、試験直前まで全く受かる自信が持てませんでした。先が見えないながらも早めにNTSを申し込み、期限ギリギリのところまでどうにか試験に挑みました。Beckerのマルチプルチョイスの繰り返し中心で学習し、直前

期にSimulationとFinal exam 2回分を解きました。

（BEC）

ボリュームも少なく、各科目の基礎を広く浅く理解することが最も大事だと思いました。私はITの知識が全くなく、範囲が狭い割には非常に心配でしたが、見たことのない問題は殆んど出ませんでした。Beckerでマルチプルチョイス（4択問題）をランダムに100問解くことを繰り返し、writingはTACの直前対策の講義を見ただけです。マルチプルチョイスで基礎知識を固めていたらwritingは書き方のポイントさえつかめば、大丈夫です。日本人でも問題ないと思います。

（REG）

メインのTAXは厳選問題集、特にSimulation問題を中心に解きました。内田先生のアドバイス通り、Beckerには殆んど手をつけず、数字の入力方法の確認程度でしたが、問題ありませんでした。Business lawは厳選問題集とBeckerマルチプルチョイスを解きました。範囲が多い割には配点が少ないので、杉浦先生がA論点とおっしゃった部分を中心に学習しました。

（AUD）

レポート類は結局暗記しきれず、重要そうな言葉のみを把握しました。FAR知識を使った問題も多く見受けられたのですがFARを受けて1年近く経過していたので、結構忘れてしまっていたことがもったいなかったと思います。マルチプルチョイス中心に解き、時間の関係上Simulationは殆んど解けませんでした。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査の結果、当初受けるはずだったGuamで求められるAdvanceの単位が足りておらず、急遽Alaska州で審査をやり直しました。再審査はそれほど時間が掛かりませんでした。が手続きは出来る限り、早めに済ませることが大事だと思います。

本試験は、とにかく時間配分に気をつけました。マルチ1問1分半の計算で、Simulationやwritingに十分な時間を残せました。それでも4時間の試験ではかなり集中力がなくなり、お手洗い休憩も取り、時間をロスしてしまいました。疲れを感じた際は、座席で深呼吸と軽い伸びなどをして、リラックスするように努めました。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は高学歴でもなく、勉強嫌いです。それでも一度決めたことは最後までと思い、なんとか合格まで辿り着きました。当初勉強を始めてから何度も誘惑に負けて、なかなか本調子に乗れませんでした。しかし途中からは、試験期間中はある程度のプライベートの予定の犠牲も今だけの辛抱と割り切りました。これから受験される方も、最初に受講された時の気持ちを思い返して、何度挫折することがあっても起き上がって欲しいと思います。皆様の合格をお祈りいたします。



## TACのテキストをマスターすることが重要

### 門司 亮平 さん

1988年2月生まれ  
東京大学 経済学部経営学科 2010年3月卒業  
勤務先：国内金融機関

2015年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：91点（2015年8月／1回目）、BEC：87点（2015年8月／1回目）  
REG：86点（2015年10月／1回目）、AUD：79点（2015年11月／1回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

U.S.CPAは業務に関連する資格であり、いままでの知識・経験が活かせると思った。日本経済・会社が国際化しつつある中、自分自身も国際化していかなければならないと感じ、その第一歩としてU.S.CPA資格取得を目指した。また、U.S.CPAは受験のタイミングを自分で決められるので、仕事との両立が図れると思ったため。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級  
英語知識：TOEIC®TEST 930点  
金融機関勤務だったが、財務部門に在籍していたわけではなく、英語を使う機会もなかったため、英語や会計用語に慣れるのに苦労した。

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

職場の先輩がTACのU.S.CPA講座を受講していたこと。  
以前、別の資格でTACの通信教育を受講しており、親しみがあつたこと。  
TACのU.S.CPA受講説明会に参加し、カリキュラムがしっかりしていて良いと思ったこと。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方々は経験豊富かつ熱意があり、満足できる講義だった。時折、雑談や試験のエピソードを話してくださるなど、見ていて飽きないように工夫がされていた。  
TACのテキスト・問題集は試験範囲を十分にカバーしているので、他の参考書籍に手を出す必要がなかった。  
U.S.CPA受験のためには、必要な会計単位の取得、学歴審査、試験申し込み、試験会場の予約等、勉強面以外でも注意点がたくさんあった。それぞれの場面において、TACのU.S.CPAポータルサイト（受講生情報サイト）の情報が大変役に立った。不明点を電話で問い合わせた時も、丁寧に対応して頂いた。独学では難しかったと思う。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信にて受講。DVD通信はいつでも見ることができ、自分のペースで学習を進めることができた。学習期間は約8か月。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般】

DVD視聴→並行して該当の問題集を解く→まとめ講義視聴→BECKER模擬試験→問題集2周目…という順序で学習を進めた。緊張感を持つために、DVDは基本的に見返さない（＝ライブの授業のつもりで受ける）よう心がけていた。

TACのテキスト・問題集はよく練られているので基本的にはこれで十分。テキストを理解することを学習の中心に据えた。問題集は正解した問題でも、解説をチェックするようにした。ダミー選択肢にも意味がある場合があるし、応用力が鍛えられたと思う。

試験はTACの講義と同じ順番（FAR、BEC、REG、AUD）で受験した。個人的にはこの順番がベストだと思う。理由は、FARは他の科目のベースになるので最初、AUDが一番高度な英語力を問われるので英語の試験に慣れた最後。また、REGとFARは共に試験範囲が広く、内容を混同しやすい（会計と税務のルールの違い（例、減価償却方法））ので、学習時期をずらした方が良いと思う。

【FAR】

最初に受験した科目であり、英語や会計用語に戸惑った。MC問題（4択問題）演習はTAC問題集で実施。シミュレーション問題は「慣れ」が必要だと感じたので、BECKERオンラインのシミュレーションを一通り解いた。

【BEC】

BECはWritten Communicationがあるので、適宜BECKERテキストで用語の定義などを英語で確認した。IT・Economics・CGは演習不足を感じたので、BECKER問題集もやった。

【REG】

試験範囲が膨大なので、まず一通り目を通して全体感をつかむことが重要。TAXは「直前対策まとめ」が役に立った。Business Lawは頻出ポイントに重点的に取り組むことが重要。

【AUD】

講義を一通り視聴後、TAC問題集を解いた。BECKERは問題数が多いにも多かったため手をつけられず、代わりにAICPAリリース問題（過去問題）を4年分解いて最近の傾向を把握した。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

スケジュールの都合で東京・大阪の両方の試験会場を経験したが、パソコン等の設備・係員の対応等に違いはなかった。都合の良い会場を選べばよいと思う。  
学歴審査、本試験申込、会場の予約など、事務フローに予想以上の時間がかかることもある。前倒しできるものは早めに着手したほうが良いと思う。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACのテキストをきちんとマスターすれば確実に合格点に達します。勉強を進めていると迷いも出てきます（ネットの情報に惑わされないこと！）が、他の参考書に手を出すよりは、TACのテキストを信じて繰り返し学習することが最短距離だと思います。実際、私はTACのテキスト・問題集+BECKERだけで合格しました。

ブラッドリー試験にしても、本試験にしても、早めに試験日程を決めることが大切だと思います。試験日程から逆算することで日々の学習計画を効果的に立てることができました。

U.S.CPAは試験範囲が広く、最初の1科目目の合格が出るまでが、一番精神的にきつい時期だと思います。かなりまとまった時間が必要になりますし、努力を無駄にしないためにも、「絶対に受かる」というモチベーションを最後まで保つことが大切です。





## 時間制約のなかで効率的に合格

村山 義尚 さん

勤務先：外資系製薬会社

2015年10月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：79点（2014年11月／1回目）、BEC：79点（2014年11月／1回目）

REG：79点（2015年5月／1回目）、AUD：88点（2015年10月／1回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会社のファイナンス部門では、U.S.CPAの取得が強く推奨されており、年齢にかかわらず新入社員でも入社後数年で合格するように求められます。私もいつかはやる必要があると思っていたので、上の子供が小学校2年生になって少し手がかからなくなってきたタイミングで学習することに決めました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語は、TOEIC®テスト900点台で、日常業務でも英語を使っています。また、会計知識は資格として簿記2級を取得しており、業務上US-GAAP（米国基準）で経理・経営企画業務を行っています。

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

アメリカにある本社が、U.S.CPAの大手予備校であるBecker社との協力関係にあったことやBecker社がU.S.CPA試験において一番合格率が高く実績があることを知っていましたので、他社とは比較せず、Becker社の日本の提携先であるTACを選びました。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

（講師）

杉浦先生の講義が、わかりやすくて面白かったです。Business Law（米国ビジネス法）という科目が面白かったのは、杉浦先生の話す力によるところが大きかったと思います。他の科目も杉浦先生で講義を受けてみたかったです。

（教材）

ボリュームが多いというところが結果的によかったです。ネット上で学習法や試験情報についていろいろと調べることがあったのですが、その中でTACの教材はボリュームが多いという意見がありました。しかし、実際の試験では細かな論点からも出題されましたので、こうした範囲も網羅しているTACの教材のおかげで、本試験であらせず平常心で受験できました。

Beckerオンライン演習ソフトがスマートフォンで勉強できる点もとてもよかったです。私の場合、仕事と家庭の両方が忙しく学習時間をいかに捻出するかというところが課題だったのですが、オンラインで学習できることで教材を持たなくても通勤時間や昼休にも学習することができました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。教室フリーパス制度がありましたが、時間がなかったため100%通信のみで学習しました。毎日スキマ時間を使って学習しましたので、合格までの学習期間としては約1年10ヶ月、学習時間は約600時間でした。

受験期間を通じていかに学習時間を捻出するかということが課題でした。私は妻と共働きで、小4と小1の子供がいます。週に2回は私が子供を迎えに行き、寝かせつけてもらっています。毎朝6時前に起き、朝食を作るのも私の役割です。そして仕事も多忙な時期とも重なってしまいました。その中でスキマの時間を使って学習するためにいろいろと苦勞し、通勤時間、昼休憩、お風呂に入りながらのDVD視聴、休日朝5時から子供たちが起きるまでの時間を活用しました。勉強めのお湯の半身浴をしながら勉強するのは、一日のリセットをしながら勉強もでき、時間の有効活用という意味ではとても効果的でした。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（FAR：財務会計）2014年1月～2014年11月

最初はFARがどんな試験なのかイメージがつかなかったため、コツコツと10ヶ月かけて勉強しました。やり方としては、まずは講義DVDを1回転（1.5倍速で見ました）、問題集を1回転、Beckerオンライン演習ソフトについては optional 以外を1回転やりました。他の方の体験記を拝見すると2回転以上やった方がいいという意見が多かったのですが、2回転以上するのは時間的に無理でした。

会計単位が3単位足りなかったため、単位認定試験の受験もこの期間に行い、ニューハンプシャー州への受験資格を満たし、出願、NTS（受験票）の取得（FARとBECの2科目）までこの期間に並行して行いました。

受験をしてみるとFARについては、学習範囲の強弱の付け方に課題があったと感じました。Dollar-Value LIFO（金額後入先出法）やパートナーシップ会計などは試験直前まで覚えられず、BeckerのFinal Exam（模擬試験）で出題されて試験直前に頭に叩き込みましたが、本試験では全く出ませんでした。こうした出題の可能性の低そうな細かな論点を必死に覚えて1点を取るより、苦手な大きな論点をきちんと理解するのに時間を使ったほうが、より効果的に勉強ができると感じました。あとNPA（公会計）からの出題は多かったです。全体の15%程度は出ているのではないのでしょうか。

（BEC：企業経営環境・経営概念）2014年7月～2014年11月

NTS（受験票）をFARとBECの2科目分取った関係で、FARと並行して学習することになりました。FARのボリュームが多かったので、BECについては勉強時間をとれず取捨選択を行いました。BECの講義うちMA&FIN（管理会計・財務管理）はきちんと学習、IT（IT概論）は第二種情報処理技術者試験の知識を持ち合わせてい

たのでDVDを見るだけ、ECO（経済学概論）は草野先生が出るとおっしゃったポイントだけを押さえました。CG（コーポレートガバナンス）は、SOX法を実務でやっていたアドバンテージはありましたが、暗記科目ですのでしっかりと学習しました。全体的な流れとしては、DVDを1回転、問題集を1回転、Beckerオンライン演習ソフトについては時間がなかったため、MA&FINはBeckerオンライン演習ソフトの問題の半分のみ（苦手な分野のみ）、ECO、ITは全くやらず、CGはしっかりと全問解き、最後にBecker Final Examを行いました。

Written Communicationは、DVD講義で教えられた通りに、文章の構成をしっかりと作ることを意識するだけとし、練習はBeckerのFinal Examだけでした。

BECはこのような必要最小限の学習しかしておらず自信がなかったのですが、合格したときは驚きました。一方で、U.S.CPA試験の合格率は50%前後だということを実感し、残り2科目はより効率的に勉強しようと思えました。

（REG：諸法規）2014年12月～2015年5月

REGの受験予定である2015年5月まで6ヶ月あったことと、2014年12月の時点で2科目合格したこととで最初の2ヶ月間は息抜きをして2015年2月から4ヶ月間かけて学習し受験に臨みました。本試験ではFARのように4時間ではなく3時間で行われる試験であったため、学習するボリュームは少ないだろうと思っていましたが、学習を始めてみるとボリュームが多く、最後に時間がなくなっていました。

REGのうちTAX（米国連邦税法）では、講義時に内田先生が厳選問題集だけやれば合格できるとおっしゃっていましたので、その言葉を信じ、これを1回転やり、間違えたところを直前にやりなおし試験に臨みました。

BL（米国ビジネス法）も、講義とTACの問題集のみ学習して試験に臨みました。BeckerはFinal Examのみやりました。本試験の手応えは合格ラインぎりぎりぐらいという感覚でしたが、REGの勉強をもう一度やり直すのは勘弁と思っていたので、合格できて一番嬉しかった科目です。

（AUD：監査および諸手続き）2015年5月～2015年10月

最後に残った科目で勉強方法は確立できており、ボリュームもREGほど多くは無かったので、結果的にじっくりと取り組みました。DVDを1回転、問題集を1回転、Beckerオンライン演習ソフトについてはoptional問題以外を全部やりました。

講義の中で小泉先生がAudit Reportは暗記することが大事だとおっしゃっていましたので、勉強時間以外にその暗記をする方法を模索しました。そしてインターネットで“Text To Speech”という方法を見つけ、テキストを音声化し、MP3ファイルにして、これを通勤中や車の中で聞くようにしました。特に車では一音に耳を出すことで暗記に役立ったと思います。これは非常に効果的でしたので皆さんにもオススメです。

本試験での話になりますが、Issuerのレポート（公開会社のレポート）が多く出題され、Non-issuerのレポート（非公開会社のレポート）があまり出題されませんでした。Non-issuerを中心に学習していたので、ここは講義とずれていました。AUDは捨ててもいいといわれていた論点も出てきて、IFAC CODE OF BASIS（国際会計士連盟の倫理綱領）、Government Auditing（政府監査基準）が出題されました。しかし、Beckerオンライン演習ソフトの中で出題されていたので本試験では対応できました。

AUDは基本的に全ての論点をじっくり学習したので、結果も今までより良かったです。U.S.CPAは広い出題範囲の中で一部が出題される試験なので、高得点を目指すのであれば細かな論点までおさえるとより良い結果が出る試験だと実感しました。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

トイレマネジメント（本試験時にいかにトイレに行く回数を減らすか）が大変でした。4科目受験しましたが、試験中にトイレに行ったのはAUDの時のみです。いかに当日朝水分補給をコントロールして本試験でトイレ休憩をせずに済むかを考えました。

そしてトイレマネジメントをして、Simulation問題の検索機能を使って、分からなかったり自信の無いSimulation問題を確認する時間に充てました。例えばAUDでは一部のAudit Reportのひな形でもが検索機能で確認できます。本試験中に1問でも正解が増えるよう、本番時は執念で検索をして、自分の回答が正しいことを最後の最後まで確認しました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACの過去の合格者の方々の体験談にはとても助けられました。ですから、私も今受験勉強をされている皆さんのお役に立ちたいと思っており、今回合格者インタビューをお引き受けしました。私ならの受験法を全てお伝えしたつもりですので、今回のインタビュー内容が少しでも皆さんの学習にお役に立てただければ幸いです。

最後にU.S.CPA受験生の方の中でお子さんのいらっしゃる方向けに、私の経験をもうひとつ共有します。私はU.S.CPAの講義DVDを子供にも見せて、子供と触れ合いながら勉強することもしました。DVDの内容に関しては子供には興味を持ってもらえませんが、「先生の口癖がDVDの中で何回出てくるか数えてみて！」と言って少しゲーム感覚を取り入れ、子供と一緒にいる時間も多少は勉強できる環境を作りました。おかげで子供たちも先生の名前と顔はしっかりと覚えられました。他にも「合格したらお父さんもニンテンドー3DSを貰うから一緒に遊ぼう」と宣言したら、「お父さんに早く合格してほしいから勉強して」と言ってくれるようにもなりました。こうして子供も味方につけて勉強環境を作り出したので、家族の理解も得られ、最終的に合格したときは家族もとても喜んでくれました。





## 海外での活躍のために

### 小野 真吾 さん

1991年生まれ

勤務先：総合商社

2015年10月 USCPA試験合格

FAR：78点（2014年5月／1回目）、BEC：76点（2014年 8月／1回目）

REG：78点（2015年2月／1回目）、AUD：80点（2015年10月／3回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私は現在、総合商社に勤務しています。若手で自分の時間が取れるうちに、財務や税務などの知識を網羅的に学習し、将来的に海外で仕事をするための基礎作りがしたいと考えていました。そんな中、U.S.CPAを取得し、海外で実際に仕事をしている先輩に相談してみたところ、U.S.CPAを学習することで財務・税務など基礎知識が身につく、取得後もU.S.CPAの肩書きがあることで相手からの信頼も増し、現地の仕事で活かすことができるとのアドバイスももらいました。自分の得たい知見と似た方向性を感じて資格勉強に取り組む事を決めました。また、海外転勤になる前にU.S.CPAを取得する事を目指し、2013年4月にTACへ申し込みました。申し込み時点では受験要件の会計単位やビジネス単位は持っていなかった為、受験要件が他州に比べて緩いアラソカ州での合格を目指すことにしました。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記3級

英語知識：TOEIC®TEST 860点

U.S.CPA学習を通じてビジネス系の英語語彙も増え、読むスピードも確実に上がりました。

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

すでに合格していた先輩がU.S.CPA学習時にTACの講座を受講しており、サポート体制が充実していることや教材も基礎的なところから応用まで幅広くしっかりとカバーしているということで奨められました。

自分なりに他の学校とも比較しましたが、サンプルテキストやサンプルDVDなどを確認し、講義スタイルも自分にあっていると思い、TACに決めました。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

テキストが非常に分かりやすく充実していました。また要点がきちんとまとめられていたので学習しやすかったです。最初の科目であるFARを学習しているときは、どこまで学習すればよいのか、わからない時もありましたが講師の方が強調するポイントや、TACのホームページに掲載されている合格体験記などを参考にしながらテキストの要点をしっかり学習することで結果的に合格することができました。

はじめから、高得点で合格するつもりはありませんでしたので、1つ目の科目であるFARを効率的に合格できたことで、要点をおさえれば合格できるという自信・安心感につながりました。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVDで学習していました。仕事も忙しかったので教室講義には1回も行けませんでした。しかし、そのような環境下でもしっかり学習できるサポート体制があります。受講生情報サイトも充実していましたし、Beckerのオンライン演習ソフトを利用することで、本番さながらの問題演習をすることができ、試験形式にも慣れることができました。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

学習方法は全ての科目に共通することとして、DVDを視聴し、テキストを熟読して問題を解きました。問題演習は最低2回繰り返して間違えた部分については「間違えノート」を作成して弱点を把握し、本試験前にも見直しをしました。基本的にはマルチプルチョイス（4択問題）の問題の内容を理解してしっかり解けるような学習を

していきました。マルチプルチョイスがしっかり解ければシミュレーションにも対応できると思います。

- ・FARは最初の科目であり、学習のペースなど力加減が良く分からなかったため、ホームページや合格者体験記などを読んでテキストの学習方法や問題演習回数などをイメージして学習を進めていきました。高得点を狙うのではなく基本的な部分をしっかり押さえ基礎問題を取りこぼさないようなシナリオで学習しました。TAC以外の教材は一切使いませんでした。
- ・BECの記述問題（Written Communication）に関しては、どんな論点が出題されるのかをBeckerなどで把握したぐらいで、特別な対策はしませんでした。記述問題も上手な英語を書くことよりも、必要な情報を書き出し、それらを繋げるイメージで取り組みました。なので、マルチプルチョイスをベースに知識をしっかりとインプットすることを重視して学習すればなんとかなると思います。やはり基礎となる知識があやふやでは書き様がありません。
- ・REGのTAXについては総まとめノートもあり非常に助かりました。ただテスト範囲は広いので自分の間違いノートも併用しながら学習していきました。
- ・AUDですが、FAR・BEC・REGは業務の中で身近な科目でしたが、AUDは監査が中心の科目ですので、業務とは身近ではなかったこともあり一番苦労しました。また他の科目を横断するような問題もあり、思い出すのが大変でした。

FARとBECについてはTACの問題集を中心に問題演習を行い、REGとAUDについてはTACの問題集+Becker問題演習をやりました。

本試験前はBeckerの模擬テストを受けることで問題の解き方や時間配分などを最終確認しました。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受講生専用サイトが充実していましたので、手続きなどでトラブルはありませんでした。でも試験当日東京、御茶ノ水のプロメトリックセンターの場所を間違えたことがありました（笑）。

実は御茶ノ水にもいくつかのプロメトリックセンターがあり、U.S.CPA試験が行われるプロメトリックセンターでは無いところに行ってしまった。幸いにも遅刻することなく受験することはできましたが、冷や汗をかきました。

またバスポートの有効期限の関係で希望日に受験ができないことが発覚し、直近であわてて受験日をリスケジュールしたこともありましたので、ご注意ください（笑）。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAはその資格としての価値もさることながら、学習の過程で得られる各科目の知識や考え方を身につけられる事にこそ価値があると思います。

TACのテキストや講義内容などは信頼できるので、学習する過程において本当にこれだけで大丈夫なのだろうかと色々不安になるかもしれませんが、TACを信じてきちんと学習すればちゃんと合格できると思います。

通信で学習していると仕事が忙しい時などは自己管理が難しくなることもあり、モチベーションが下がることもありました。そんなときはU.S.CPA取得後にどんな仕事をしたいのか、どういった分野で活躍したいのか等をイメージし、関連する分野の本を読んだりして自らを鼓舞してモチベーションを上げるようにしていました。

またU.S.CPAは1~2ヶ月取得できる資格ではないので、ある程度長い目で見て、継続的に勉強に取り組める環境下にいるか、勉強する目的について自分の中で本当に納得しているかを確認した上で学習を開始するのが良いかと思います。

これからU.S.CPAを目指す皆さんも是非、最後まで頑張ってください。

## シニアでも続ければ合格



Y.A さん

1955年生まれ

上智大学 外国語学部

勤務先：商社

2015年11月 USCPA試験合格（アラソカ州）

FAR：79点（2015年8月／3回目）、BEC：79点（2015年11月／4回目）

REG：75点（2015年2月／2回目）、AUD：78点（2014年5月／7回目）

初回受験は他校の教材により準備を進めて2004年7月。その後、いくつか事情が重なり他の予定を優先させた結果、2009年頃まで一時中断。受験再開の体制が整ったのは2010年。尚、FARとBECはEXPIREの為、再受験・再合格。

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- ・50歳近くで営業部隊から管理協力部隊に変わった。たまたまこの時、会社の研修でTACの経営財務プロフェッショナル養成講座を受講したことなどが切掛けとなり米国会計への興味が高まった。グローバル化の進む世界では、世界最大の資本市場たるアメリカの会計基準や監査基準を英語で理解することは、財務・経理マンや監査人だけではなく、我々にとってもビジネス常識としても益々必要になって来ているのではないかと強く思った。
- ・生涯現役の増える時代に、世界ビジネス用語とも言える英語で世界の人達と繋がる、何か一生ものの資格がほしかった。そして一生ものの資格ゆえ、多少の歳月と費用がかかったとしても、チャレンジに値すると考えた。
- ・良い習慣は、その気になれば獲得できる無形資産。例え一日30分しか勉強できない日があったとしても、USCPA試験対策を続けることで、人生幾つになっても学習を継続する「良い習慣」を稼得したかった。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

開始時は、英語力として英検1級があっただけで、会計や簿記の資格は無かった。

しかし、USCPA合格までの過程で、TOEICを受験すると880から950に、また簿記は2級合格となった。

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TAC/Beckerの教材が本試験さながらであることから選んだ。勉強を始めた当初はまだ現在のようなTAC/Becker教材が出ておらず、他の教材を使用した。初めからTAC/Beckerの教材があり、これが活用できていれば、教材であれこれ迷うこともなく、もっと合格が早かったのではとも思う。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

- ・FAR、BEC、REG、AUDのどの科目も「Simulation対策&総まとめ講義」又は「Written Communication対策&総まとめ講義」とDVDが要領よくまとまって良かった。
- ・Beckerテキスト巻末の、GlossaryやIndexが言葉の整理に役立った。
- ・Final Examinationが試験本番さながらで、試験のペースを掴むのに大変役立った。
- ・特にFinal ExaminationのSimulationのSearch問題ではAuthoritative Literatureがあり、使い方に十分慣れることが出来た。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

- ・通信で学習した。受験を思い立ってからトータルで約12年。中断を経て、TAC/Beckerの教材を頼りにして迷わず、勉強を再開してから約5年であった。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

- ・この試験の合格は短期合格が望ましいと思う。出来ればそうしたい試験である。

- ・しかし、私の場合は中々、短期集中的に時間が作れず。そこで、例え時間は掛かって長期に少しずつ積み上げることで合格に近づいていく方法を選び、1科目ずつじっくりと勉強を続けた。このためFARとBECについては1年半のCreditがそれぞれ切れて再受験となったが、それも想定内で、焦ることなく対策を進めた。当然ではあるが、再合格は初回合格よりも少ない時間で可能であった。
- ・いずれの科目も「Simulation対策&総まとめ講義」又は「Written Communication対策&総まとめ講義」を使用。まず、付属のDVDを1.5倍速で見た上で、テキストを5回～6回、MultiやSimulation問題を2回、それにFinal Examinationを5回程度解いた。特にテキストは読む度に新たに気づくことが増えて来た。
- ・ポイントノートを作りこれを試験の前に読み返しては暗記した。
- ・BECのWritten Communication対策として、回答例を全てIC Recorderで録音。ウォーキング時にはこれを繰り返し聴いた。
- ・試験前には、必ず試験後の予定を決めた。試験が終わってから、不合格であると想定して試験の内容を出来るだけ細部まで再見し、再試験となる場合に備えての対策を記した。試験後の1週間は、USCPA関連の勉強予定は一切入れずリフレッシュの期間とした。試験後、2週目から発表日までは、合格した場合を想定して次の科目をざっと眺めることにしていた。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

- ・FARの受験中、後ろの席からタイプを打つ大きな音が長く続いた。BECのWritten Communicationの問題でも解いていたのかもしれない。デスクに備え付けのヘッドフォン型の耳あてをするも、タイプの音を遮ることは出来ず。やや困ったと思っていたとやがて音は止んだ。私など離れていたからまだ良かったが、横の席の人たちは相当大変だったろうと思う。試験の後で試験官に聞いたところ、耳栓は持ちこんでもよいとのことだったので、試験会場には念の為、MY耳栓を持って行き、事前に会場側にその時の対応につき尋ねておくと良いかもしれない。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

- ・短期集中型の為の勉強時間が取れて、それが実行できる人は、その方が効率よく合格出来ると思う。
- ・但し、仮に様々な事情でそれができないとしても、決して合格を諦める必要はない。  
私の場合、長い中断もあり、本格的に勉強を再開したのが50代半ばで、合格したのは60歳。勉強時間は平日で1時間から1時間半、土日2日間で長くて6時間程度であった。これを長いとするか短いとするかは人それぞれであるが、私の場合は、これが苦にならなかったで続けていたら合格出来た。
- ・TAC/Beckerの教材を信じて迷わず、毎日少しずつでも勉強を続けられればUSCPA試験は必ず合格出来る試験である。
- ・受験期間中、TAC関係者からは様々なアドバイスや応援を頂いたことに深く感謝すると共に、試験合格を目指す同志の皆さまの願いが必ずかなうことを強く祈念する次第です。有難うございました。

## 集中して勉強して短期合格する！



N.N さん

勤務先：税理士法人 経理  
2005年12月税理士合格（簿、財、法、  
相、国徴）、2006年税理士登録

2015年11月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）  
FAR：75点（2015年5月／1回目）、BEC：79点（2015年10月／3回目）  
REG：79点（2015年7月／1回目）、AUD：81点（2015年11月／2回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

税理士業務を数年行った後、会社の経理に携わることとなり業務内容が税務のみではなく管理会計を含むものとなりました。

そのため、体系的に会計を学びたいと思い、財務諸表やルールが英語であることから、せっかくなので英語で会計を学んでみたいと思いました。

また、大学院でMBAを取得済みであり、USCPAの学習範囲に興味を感じたためです。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：税理士登録済み  
英語知識：TOEIC®TEST 920点

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士受験の時からお世話になっていたため。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

BECのWritten Communication添削コースを受講し、自分のスタイルを作ることが出来ました。そのため自信を持って試験に臨むことができました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

Webで学習しました。

8か月 2015年4月に学習を開始し、2015年11月に最後の科目を受験。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

4科目とも以下の流れで学習しました。

- ・通信講座を聞く
- ・テキストを1度通しで読む
- ・BeckerのOptional Question以外の問題を解く
- ・何度もテキストを読む
- ・試験数週間前にBeckerオンラインのReview Before Examを解く
- ・試験まで何度もテキストを読む

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

試験時間が長いです。試験途中で眠くなったのは初めてでした(笑)。

1~2回休憩を取っていました。休憩ではお手洗いにいき、チョコを食べ、飲み物を飲んで気分転換をしました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

初めに何ヶ月で終わらせる！と目標を立てるといいと思います。

また、範囲やボリュームが多いので、全てを完璧に理解して頭に入れようと思わず、大体理解できれば大丈夫と気楽に学習を進めていくとよいと思います。

試験の解答方式が選択なので、大筋を理解していれば大丈夫だと思います。

また、実際の試験で問題文の意味が理解しづらかったり、知らない問題が出ることもありますが、そんなときは（たいていの受験生は同じように感じているはず=合否にさほど影響ない！）と割り切って解き進めていくといいと思います。

テストレットの問題が明らかに簡単になり、（あー落ちたわ）と思って投げやりになって解き進めたこともありますが、その時は合格していましたので、テストレットの難易度は気にしない方がいいと思います。



## 海外駐在期間の目標として



T.U さん

1974年9月生まれ

勤務先：監査法人勤務（海外駐在中）

N/A

2015年11月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：75点（2014年10月／1回目）、BEC：77点（2015年5月／1回目）

REG：83点（2015年11月／4回目）、AUD：77点（2014年10月／1回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

国内監査法人で10年ほど上場企業の監査経験を積み、3年前に海外駐在の機会をいただき赴任しました。現地の上司・同僚との業務上のコミュニケーションは主に英語で、赴任当初は監査業務等に関する詳細な議論が上手くできず時折もどかしい思いをしていましたが、一方で国際部出身のU.S.CPAの先輩が流暢な英語を駆使して業務をスムーズに進められている様子を目の当たりにし、業務上の必要性を強く感じU.S.CPA受験を決意しました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日本の公認会計士

英語知識：TOEIC®TEST 840点

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士試験受験の際もお世話になっていました。U.S.CPA受験にあたって情報収集もしましたが、やはり一番信頼できると感じTACを選びました。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

日本の公認会計士講座を受講した時も感じましたが、講師の方の説明が大変わかりやすかったですし、教材も非常に良くまとまっていて効率的に理解を深めることができましたと思います。Beckerのテキスト等も含めると教材のボリュームは相当なものでしたが、TACのノウハウの詰まったオリジナル教材に重点を置いて学習を進めました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

海外駐在中のため通信で受講し、主に自宅で学習しました。経営学部卒業でしたが、ワシントン州の必要単位数を満たしていなかったため、TACが提携しているブラッドリー大学で追加で21単位取得しました。この期間を含めて申し込みから合格までちょうど2年です。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

駐在員としての業務は、日本で勤務している時に比べかなり幅広く様々な都市からの緊急の問い合わせに対応しなければならないこともよくあり、また、酒宴の席も多いため、早朝の1、2時間と週末にできるだけ学習時間を確保するようにしました（とは言え繁忙期はほとんど勉強できない月もありました）。

全般：TACのテキストを通読し日本語で理解・確認した後は、実務のコミュニケーションで使うことができるよう、問題集を解く際はできるだけ英文を声に出しながら進めるようにしました。

FAR：TACのテキストを通読し、問題集を解きました（実際は時間切れで全く解けなかった章もあります）。また、日本の公認会計士試験の内容と重ならない政府会計のDVD講義のみ1.5倍速再生で視聴し理解を深めました。Becker教材には一切手をつけていません。試験本番はIFRS関連の問題がかなり出題された印象がありました。

AUD：TACのテキストと問題集のみ利用し、DVD講義は視聴しませんでした。内容の大半は日本の公認会計士受験で学習した監査論の枠組みの中で監査用語の英語表現を学習している感覚だったため、楽しんで取り組めた科目でした。この科目もBecker教材には一切手をつけませんでした。

BEC：範囲が広くCGとITは日本の公認会計士試験の内容と重ならないためDVD講義を1.5倍速で視聴しました。その後、MA、CG、IT、ECOともTACのテキストを読み込み、問題集を2度ずつ解きました。また、MA以外はBecker onlineも一通り解き、間違った問題や理解が曖昧な問題について直前で見返すことができるようExcelシートにプリントスクリーンで貼り付けていく作業をしました。WCについてもBecker onlineの問題に全て目を通し、ある程度書き方のフォームを準備して望みましたが、本番は時間が足りず5行ほどしか書けない問題もありました。

REG：日本の公認会計士試験の内容と重複する部分がほとんどなく、業務との直接的な関わりも大きくないためモチベーションの持続も含めて1番苦勞した科目でした。初回受験時はDVD講義を全て1.5倍速で視聴し、一通りTACのテキストに目を通したものの、BLの問題集もTaxのMC厳選問題集さえも1回転できないまま本番を迎えましたがやはり全く通用しませんでした。その後、BLについてはAランク論点を中心にテキストを熟読しながら問題集を2度解き、TaxについてはTACのテキストと直対まとめを横に開いて、SIM基本問題集とMC厳選問題集をこちらも2回転し、ようやく合格レベルに達することができました。4度続けて受験してわかったことは、出題されたSIM問題に重複がほとんどなかったということです。そのため、SIM問題演習を網羅的に解いて各論点についてある程度の理解をしておかなければ合格が難しくなる科目だと感じました。また、暗記の要素も多いため、試験前の一定期間固めて学習時間を取れる方は有利ですが、そうでない方は少しずつ継続的に取り組んで、試験直前に短い時間で見直せるよう準備しておく必要があると思います。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

業務に支障が出ないようにできるだけNational Holidayにあわせて帰国し、東京（御茶ノ水）か大阪（中津）のプロメトリックセンターで受験しました。

在住国のインターネットの接続環境が悪いことが原因で、Webでのプロメトリックセンターの予約が上手くできず、日本にいる同僚にお願いし予約してもらったこともありました。その後、電話でも空室確認や予約ができることを知り2回目以降の受験からは問題なくスムーズに進めることができました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

範囲が広く網羅的に学習する必要がある試験ですが、素直な問題が多いため学習の成果が結果に繋がるよい試験だと思います。海外の大手会計事務所を見渡すと国籍に関わらずU.S.CPAの方が監査部門のみならず、税務やアドバイザーの部門でも活躍されているのをよく目にします。世界中で活躍の場がたくさんあると感じています。

最後に仕事が忙しく学習時間の制約がある方は、まずはTAC教材のみに集中することを強くお勧めします。

## 英語で会計学を学んだ人にも良い講座だと思えます



M.O さん

Indiana University 2012年卒業

2015年11月 USCPA試験合格 (ワシントン州)

FAR : 79点 (2015年1月/1回目)、BEC : 80点 (2015年5月/1回目)

REG : 81点 (2015年10月/2回目)、AUD : 84点 (2015年11月/2回目)

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学で会計学を専攻すると決めた時からU.S.CPAになりたいと思っていました。

(各科目の相違点)

<FAR>

TACの教材のみ使用、Becker onlineは一度も使いませんでした。後々、SIMを少しでも通しておけば良かったと反省しました。

<BEC>

Becker onlineは、主に各論点のMC (多いので選んで通しました)、SIM、comprehensive progress testとfinal examを活用。

<REG、AUD>

Becker onlineは、主に各論点のMC (多いので選んで通しました)、SIM、comprehensive progress testとfinal examを活用。過去問も何年分か通しました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識 : 大学で会計と財務を専攻

英語知識 : TOEIC®TEST 905点

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

最初は自分で勉強しようと思い独学用教材を買って勉強していましたが、モチベーションが続かず、ちゃんと体系的に学びたい、そして会計の専門用語を英語でしか知らなかった為、日本語の対応する用語も学びたいと思い、日本の資格の学校の講座に申し込もうと思いましたが、TACを選んだ理由は、講座の視聴をしてみても他校よりもライブ感があったからです。本当は教室通学してモチベーションを保つのに役立てたかったのですが、海外在住なので受講方法が通信に限られました。DVDは何も加工されていなくて、黒板を使っている授業ですし、そのまま教室に座って授業をしているかのような感じだったのでモチベーションが続くのではないかと思います、TACに決めました。

### Q4 TACの講座でよかったところ (講師、教材、カリキュラムなど)

TACの講座でよかったところは、受講前の質問メールへ対応して下さったスタッフの方々に始まり、教材や講師の方々の説明もとても丁寧だったところです。それから、原則はこうなっているけど、実務ではこういう事が多いです、というような話もして下さって実際の例に絡めて原則を覚えたりもできました。

一番印象に残っている講義は、FARの講義も半分を過ぎそうな所で、小泉先生が“FAR2が一番辛い所かもしれませんが、やると決めたからにはやめたら駄目ですよ。初志貫徹して下さい。”という風に激励して下さいました。長いFARの勉強に頭が疲れてきた時だったので心に染みましたが、生徒に親身になって応援して下さい、モチベーションも持続できました。

それから、内田先生の授業も印象的でした。とても面白くて楽しめましたし、授業を受けてまとめノートを見返すと、頭の中で論点がキレイに整理されるような感じがしました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信です。TACの教材と講義で勉強し始めてから全教科合格までの学習期間は1年2ヶ月です。

### Q6 合格までの学習法 (全般的なこと/科目別)

(各科目の共通点)

(1) DVD視聴しながら議事録にノートをとる (2) 区切りのいいところでTACの問題集を解く (全DVDの視聴が終わったら何度か回転) (3) 苦手項目を少なくするため、出来る限り自分でまとめノートを作成 (テスト前の確認にも役に立ちました)

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続に関して :

学生の頃から、後々USCPA受験をする計画でしたので、会計と財務のダブルメジャーをして150単位を取得しておいた為、大学卒業時に受験資格を満たしました。受験手続に問題はありませんでした。

受験の日 :

テスト中にトイレに時間を割けなくなかったので、テストに向かう数時間前には、(1) コーヒーなどのカフェイン飲料は飲まない (2) 塩分が少々多い食事をして、水分を含んだ食べ物は食べない (スープなど) は、私の中でルールでした。ちなみに、(2) はいつもオムライスを食べたのがオムライスだったので、願掛けです (笑)

結果、4時間のFARとAUDはSIM前にトイレに一度行き、3時間のBECと REGは最後まで席を立ちませんでした。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私の場合、夫と家族のサポートのおかげで、仕事をせずにテスト勉強に専念する事ができました。ただその場合、しばらく社会から離れる事になるのでそれなりの覚悟が必要だと思います。ですが、他の合格者の方もおっしゃっている通り、USCPA試験はかけた労力と時間に結果が比例するテストだと思いました。勉強の方法は人それぞれで違いますが、自身の知識が各科目75点以上レベルまで上がった時は、大体感覚でわかると思います。この感覚に敏感になりながら試験日程を設定すると思います。

あとは、受験生活が長丁場になると思いますのでモチベーションの管理と、できるだけ自分なりのノートを作成すると良いと思います。自分を信じて頑張ってください !

最後に、USCPA試験の講師の方々、スタッフの方々どうもありがとうございました !



# 来日、育児、仕事、家事、Working Motherとして時間との戦い

## 郭 芳 さん

1976年11月生まれ

勤務先：大手税理士法人

来日5年、限られた時間を最大限に活用。主人の協力も。

2015年11月 USCPA試験合格（アラスカ州）

FAR：82点（2014年10月／1回目）、BEC：84点（2014年11月／1回目）

REG：75点（2015年4月／1回目）、AUD：87点（2015年11月／3回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

6年ほど前に中国から来日してきた際に、TACで日商簿記2級を学習しました。その後、日商簿記1級を学習しようか、U.S.CPAを学習しようか迷いましたが、国際的にも通用する資格を取得することにより、自分の英語力と専門知識をいかして、どこの国でも共通に仕事の出来るグローバルな国際人になりたいと考えたためU.S.CPA試験にチャレンジしようと思えました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：日商簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 965点

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

インターネットで調べていた時に受講生の評判がよく、合格者の皆様の体験談も大変参考になりました。また講座説明会でのガイダンスがとても丁寧でした。

教材も実績の高いBecker教材を利用していることや、Bradley大学と提携をされていることもプラスでした。

また私にとっては、Beckerの講義を英語で視聴できるのも決め手の一つでした。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

TACが提携しているBeckerの教材がやはり世界一のU.S.CPA教材で、たいへん分かりやすかったです。パソコンでの問題演習やスマホでの問題演習が出来るため、効率が良く便利でした。通勤時や外出時の隙間時間を利用してスマホでMC（4択問題）の演習をしていました。

またSimulation対策のテキストも非常に参考になりました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVD講座

一年半くらいです。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

<全般>

まずは、時間を確保することです。私は、できるだけ朝4時に起きて2時間程度、お昼休み、往復の通勤時間などの隙間時間を活用しました。

TACのBecker教材では、米国のBeckerが行っている英語の講義も視聴することができますので、通勤時間を使ってスマホでBeckerの英語の講義内容を聞き流しました。帰宅後は、一度聞いた内容を紙ベースの教材を読みながらもう一度聞き取りを行いました。ここで自分なりのノートも作りました。時間は多少かかるのですが、これが一番頭に入りました。

教材の勉強が2回転した後、1回転目のMC問題に入ります。間違った所があれば、再度教材に戻ります。MC問題が1回転し終わった後、紙ベースの教材をもう一度読みます。こうして、頭の中で

Structureを作っていきます。

その後、MC問題全体を2~3回転、間違えた所はノートに書きとめました。Simulation問題は3回、Final Exam（模擬試験）は3回まわりました。

これが4科目全体の学習のベースです。

<各科目ごとでは>

FAR：一番ボリュームのある科目でその量に驚きました。また公会計もあるので多少戸惑いました。一番時間がかかった科目でしたが、地道にコツコツと問題を解いていきました。

BEC：BECにはそれほど苦手意識は無かったのですが、ITなど専門的な言葉を覚えるのが大変でした。Beckerの問題で見たことがない単語は、インターネットでその都度、調べるようにしていました。本番でも何個か知らない単語や思い出せない単語は出てきたのですが、なんとなく思い出しながら解きました。

REG：税法は、日本、中国、米国とそれぞれ違うのではじめは戸惑いました。また内容としては一番細かく幅が広いので、米国のBeckerに直接メールをして質問をしたりもしました。

AUD：この科目もはじめはそれほど難しいとは思わなかったのですが、実は試験では細かい部分がよく出題されたり、政府の監査や監査人の倫理、科目を横断するような問題（例えばFARの修正仕訳のような問題、在庫管理の仕訳等）が出題される傾向にあるようですので、FARもある程度は見ていただいた方が良かったと思います。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

手続は特に問題はなかったです。

試験の時、MCが全て解き終わって、Simulationを始める前に毎回、一回休憩しました。阿辺講師がセミナーの時に教えてくれたNutrition barを食べて、少し頭をresetしていました。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

継続は力になります。毎日少しずつでもかまわないので、コツコツと講義や問題を解いて英語の感覚を頭に入れていくと良いと思います。

来日した当初は、言葉も良く分からず、苦労したこともありましたが、友人が楽しく遊んでいる時に、朝4時に起きて勉強をはじめ、昼間は仕事、子供の育児と家事に追われていました。ただこの勉強をすることによって自分の人生を広げることができると思えて学習を続けていました。

実際、私も何年以上仕事から離れてしまった時期がありましたが、FARとBECが合格した段階で転職活動をして今の税理士法人に再就職することができました。それによって本当に見える世界が変わりました。

また自分が勉強している姿を子供たちに見せられたのも良かったかなと思います。

資格の勉強は大変かもしれませんが、基本的に自分で乗り越えられるものだと思います。日々の仕事における、お客様の対応や複雑なプロジェクトの解決、新しい発想などの方がよっぽど難しいと思います。

皆さんも是非、心が折れそうになっても自信を持って、夢をもって、自分を信じて頑張ってくださいと思います。





## 足を折らずに済んだ2年間

### 前田 信太郎 さん

1984年5月生まれ  
2008年3月大学卒業  
勤務先：大手電機メーカー  
留学（シンガポール）、海外赴任（オランダ）

2015年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）  
FAR：84点（2014年2月／1回目）、BEC：79点（2014年4月／1回目）  
REG：83点（2015年2月／1回目）、AUD：79点（2015年1月／2回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

入社以来、営業関連の業務をしています。入社3年目で海外（オランダ）に赴任する機会がありましたが、営業職はネイティブと同等のコミュニケーションが取れないと、継続的、且つ、高額な信頼取引はしてもらえない、海外で営業職を極めるのは難しい、と挫折を味わいました。とは言い、将来的に海外での勤務には再チャレンジをしたいと考え、役職が上がった際に、経営者として役立つであろう会計士の学習に魅力を感じました。赴任した現地法人のCFOや出身部署に試験合格者がいたのも大きなきっかけです。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：無し  
英語知識：TOEIC®TEST 930点

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

出身部署の先輩がTACで合格をされていた事がきっかけですが、U.S.CPAの学習を始める直前に簿記3級の講座を受講し、自身でもTACに付いて行けば間違い無い事を確認しました。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方々に尽きます。

草野先生(FAR&ECO)：授業のある土曜日が週の中で一番楽しみな日になり、勉強と言うよりも人生観を教えて頂いたと思っています。

平石先生(FAR)：連結と言う難易度の高いトピックを、会計の基本である仕訳で効率的に理解させて頂きました。

内田先生(FAR&REG)：絶対に不合格にさせないと言う気迫が伝わり、授業後も長時間に渡るフォローをして頂きました。

田中先生(IT)：IT業界で勤務している者として、この様な教え方をすれば理解が深まるのだと、実務でも影響を受けました。

渡辺先生(MA)：たった10回の授業で管理会計と言う大きなトピックを効率的に教えて頂き、体系だった理解に落とし込んで頂きました。

杉浦先生(CG&BL)：計算し尽くされた授業は、美しさすら感じました。水が流れる様な授業でした。

小泉先生(AUD)：たくさん授業後のフォローを頂きました。一度、AUDは不合格になってしまいましたが、熱い激励を頂き、すぐに立ち直る事が出来ました。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

WEB通信講座の申し込みをしましたが、教室フリーパス制度を利用し、全て教室で受講をしました。合格までは1年11ヶ月です。

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全体】

最初から2年間で終わらせるスケジュールを立てました。月毎のWBSを作成し、ほぼ当初立てた予定通りに進みました。1年目については、最初の半年間でFARとBECを受講し、その後の半年間で2科目合格するスケジュールを立て、2年目についても、最初の半年間でREGとAUDを受講し、残りの半年間で本試験対策と言うのが基本スケジュールでした。結果的にはこれが功を奏したと思っています。1年間で全ての科目を受講してから本試験対策をする場合、最初の記憶は遙か彼方になっていたと思います。科目合格の後には、Expireの危険がありますが、それ程、恐怖は感じませんでした。

日々の学習では、各科目、翌週の授業まででその週で対応する部分の問題集は必ず解きました。各科目の授業が最後まで終わった後

は、再度、テキストと問題集を1回転し、理解を定着させてから、直前対策を受講、その後、Beckerを2回転から4回転させました(4回転はAUDのみ)。各科目、Beckerは約1,500問ありますが、2週目になると約10日間で1回転出来るようになります。受験直前期の最終段階でAICPAのリリース問題に手を付けましたが、Beckerの方が難易度が高い為、AICPAのリリース問題は初回9割を目標にしました。

また、標準装備の音声DLを利用し、移動中はDLした授業を常に聞いていました。毎週6時間の授業がアップされますが、1週間で2回転は出来るので、授業+DL×2で、計3回は同じ内容を聞く事が出来ました。

【FAR】

初学者としてU.S.CPAの学習を始めるよりも、簿記の基礎知識があった方が良いと思います。私は簿記3級を合格した直後に授業を始めましたが、そもそも授業のスピードが速く、また、米国公認会計士と言う響きだけに慣れて受講すると、仕訳を延々と切り続ける地味さ等、後々、ミスマッチだった時のリスクが大きくなると思います。Final Reviewは1回目が55%、2回目が69%でした。他の方の体験記にもありますが、Final Reviewは本試験よりも難易度が高く作られており、正答率は余り気にしませんでした。

【BEC】

IT、MA、ECO、CGと範囲が広い分、科目毎の密度が低くなり、一番簡単な科目でした。草野先生に教えて頂いた高得点合格を狙わないと言う戦略の元、最初から80点を狙って進められました。WCも基本フォーマットに当てはめるパズルの様に考えれば、特に怖くはありませんでした。Final Reviewは1回目が59%、2回目が57%でした。

【REG】

最後の受験科目と言う事もあり、落ち着いて受験が出来ました。タイムマネジメントが一番難しい科目ですが、1問30秒を目安にBeckerを回しました。毎週の宿題にSIMが出される唯一の科目だった為、本試験でもどうしたら良いか全く解らないタイプの問題には出会いませんでした。Final Reviewは1回目が64%、2回目が70%でした。

【AUD】

簡単と思っていたのですが、一度、躓いてしまいました。Final Reviewは1回目が74%、2回目が80%でした。1回転目からBeckerの正答率が80%を超え、Final Reviewの正答率も悪くなく、且つ、4時間の内、1時間半も時間が余ったので、これは大丈夫だろうと受験した所、69%で不合格でした。本試験でも1時間以上時間が余り、合格間違い無いと思っていたので、かなりのショックを受けました。結果を見るとEthicsとSimulationが少し弱かったので、全体の正答率を高めることに加え、各論点も丁寧に見る必要があると感じました。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACのマニュアルに従い、ほぼスムーズに進みました。FARの本試験中にマウスが利かなくなる障害がありましたが、席を移動しても改善せず、担当者からはCPAの試験は重いので、よくあるとの事でした。よくあるのも困りますが、動作のもっさり感は非常に感じました。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

本試験を初めて受験する直前は、どの程度の勉強をすれば合格出来るのかと言う目安が解らず、非常に心配をしていました。夢に税効果が出て来て真夜中に飛び起き、そのまま教科書を読み始めたり、足を折れば会社を休んで勉強の時間を捻出出来るなど考え始めたり、今考えると追い詰められていたと思う事もありますが、初回受験のFARに合格が出来た時には、今後、多少の躓きがあっても大丈夫そうだとする自信が付きました。初回受験で合格した人はその後スムーズに合格する傾向があると思います。ですので、初回受験は特に気合いを入れて臨んでみて下さい。

# 人生で一番真面目に勉強しました。



C.N さん

1969年3月生まれ  
新潟大学 法学部卒業  
勤務先：国内事業会社

2015年2月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：87点（2014年7月／1回目）、BEC：77点（2015年2月／2回目）  
REG：82点（2014年10月／1回目）、AUD：77点（2015年1月／1回目）

## Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

英語学習の一環として、BATICの公式テキストと問題集を買ってきて独学で勉強しました。Controller Levelを目指していましたが、点数が足りず悔しくて、どうせならUSCPAを目指してしまえと思ったのがきっかけです。これまであまり勉強してこなかったの、一度くらいは本気で勉強してみようと思いました。

## Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：BATIC 863点  
英語知識：TOEIC®TEST 620点

## Q3 TACをお選びいただいた理由は？

有名予備校4校のサイトを良く読み、口コミや評判をネットで調べてTACに決めました。USCPAは他の資格試験に比べて受験までに結構なお金がかかるので、受講料は予備校選択の中で重要なファクターでしたが、各種割引制度や会計単位の取得費用、充実したサポート体制等を総合的に判断した結果がTACでした。

## Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師、教材ともに抜群です。余計な事は考えず、素直にTACだけを信じて頑張れば、合格レベルに達することが出来ると思います。

## Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。学習期間は1年2ヶ月（2014年1月～2015年2月）で、学習時間は合計946時間でした。他の方の合格体験記を参考にして、学習時間は毎日記録しました。勉強は時間ではなくて質の方が大切だとは思いますが、一般的に1,000時間程度は必要だと言われるUSCPAの受験勉強において、自分が今どの程度の位置にいるのかを測るとともに、これだけやっているんだというモチベーションの維持にも役立ちました。

## Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

### 【全般】

私は1年での合格を目指していたので、まず最初に合格目標日を設定し、そこから逆算して、学歴審査→会計単位の取得→出願→各科目の受験日を細かく計画しました。その日程表に従い、1ヶ月単位・1週間単位でどれくらいのペースを守れば良いのかを考えながら学習を進めました。出勤前に喫茶店で1時間とか、お昼休みの中から30分間とか、仕事での移動時間等から学習時間を捻出しました。土日は時間がたっぷりありましたが、私の場合は、休みの日ほどだらけてしまい、平日の隙間時間の方が集中できました。

### 【FAR】学習時間：298時間

DVD講義を1.5倍速で切りの良いところまで視聴してから、該当する問題集を解くというスタイルでまず全体を一周しました。ブラッドリー大学で会計単位を取得するため、途中からはBECのMAの学習と並行して、必要単位を3ヶ月で取得しました。最初の受験は、FARとBECの2科目受験を計画し、6か月間にDVD講義も含めて、テキストと問題集を合計3回転しました。出題頻度の高い政府会計にも力を入れました。BECKERとSim対策&総まとめ講義はやっていません。TACの基本テキストと問題集だけしっかりやれば十分だと思います。

### 【BEC】1回目 学習時間：197時間（結果FAIL：72点）

FARと同様の方法で、基本テキストと問題集を3回転しました。ただ、MAの講義だけは、講師の方が少し早口だったため、1.5倍速では早過ぎて通常速度で視聴しました（笑）。BECKERはやりませんでした。WC対策としても、TACの解答例3つ暗記し、実際に1度タイピングしてみた程度でした。結果はFAIL。本番のWCは、稚拙な英文を殴り書き（殴り入力）してみましたが、おそらく1点も貰えなかったと思います。ノンネイティブの受験生にとっては、WCがあるBECは非常に厄介な科目です。

### 【REG】学習時間：201時間

FARとBECの2科目受験の後、REGは1科目受験に絞り、3か月後の受験日を設定しました。学習方法は上記と同様です。REGの学習開始から1か月後にBECのFAILが判って、BECとの並行学習も考えましたが、一度決めた受験スケジュールを優先して、REGに集中することにしました（BECのFAILが思った以上にショックだったため、一旦忘れたという思いもありました）。REGは、内田先生が2回転したら受験した方が良くと講義で仰っていたので、素直に基本テキストと問題集を2回転して受験に臨みました。ただ、TAXの直前対策まとめは常に持ち歩いて、隙間時間に何度も見ていました。BLは、割り切ってA論点のみに絞って学習しました。BECKERとSim対策&総まとめ講義はやっていません。TACの基本テキストと問題集だけで十分だと思います。

### 【AUD】学習時間：150時間

BECの2回目は後回しにして、REGの受験後、3ヶ月後の受験日を設定し、AUDの学習を開始しました。しかし、この頃は弛み気味で、仕事の忙しさも重なって1日の学習時間がかなり減っていました。ただ、スケジュールを優先し、受験日を先に決めていたことで、最後の追い込みが出来たと思います。AUDも学習方法は他の科目と同様に、基本テキストと問題集を3回転しましたが、Sim対策&総まとめ講義も1回転やりました。BECKERはやっていません。AUDの75点ラインは、TACのテキストと問題集だけでクリア可能だと思いますが、少し不安がある方は、BECKERもやった方が良いでしょう。

### 【BEC】2回目 学習時間：100時間（1回目と合わせて297時間）

AUDの受験後、2月の受験可能日までに6週間しかありませんでしたが、3月は受験ができないので、早く受験勉強を終わらせたいという思いから、AUDのPASSを信じて、思い切って受験申込を先に済ませました。何度も言うようですが、勉強してから受験日を決めるのではなく、受験日を先に決めてから勉強する方が自分を追い込む意味でも有効だと思います。BECの2回目は、1回目の受験から6か月後の学習再開でしたが、過去には基本テキストと問題集を3回転しているの、短期集中で挑みました。学習方法は、基本テキストと問題集を再度1回転した後、2回目受験なので、さすがにBECKERも1.5回転やりました。0.5回転分は、時間がなかったのと、受験直前に駄目元でもいから、WC対策をしようと思ったからです。WC対策は、TACの解答例を6つ暗記し、実際に3度タイピングしました。本番のWCでは、似たような内容の問題が出て、多少論点はズレていたかもしれませんが、1回目に比べれば随分まともな英文を書くことが出来ました。結果は、77点のPASSだったので、WCで何点貰えたのか分かりませんが、構成点だけでも数点貰えていたとすれば、合否に大きく関わっていたことになりそうです。BECのMCは、Difficultスレッドで難解な問題も多いので、WCで2～3点でも取れるように、諦めず対策した方が良いでしょう。

## Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続に関しては、受講生サイトで分かり易く説明されているので、特に困ったことはありませんでした。サポート体制も万全で、質問メールにも迅速に対応していただきました。ただ、当たり前の話ですが、全て英語なので、日常生活や仕事で英語をあまり使っていない方は結構な労力を要します。やはり事前準備をしっかりしておいた方が良いでしょう。

## Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私は、このような体験記を書くような性格ではないのですが、受験勉強中は合格体験記を読むことで、学習方法の参考になったり、また多くの勇気を貰ったので、これから合格を目指す方に少しでもお役に立つことが出来ればと思い、ペンを執りました。USCPAの試験に挑む方の多くが社会人で、それぞれの仕事があったり、家庭があったり、受験勉強だけに時間を費やすことは難しいと思います。勉強が行き詰って、途中で投げ出したくなる時もあると思います。そんな時は、切り替えて飲みに行ったり、遊んだりしてください。私も勉強を止めて何度も飲みに行きましたし、たまにゴルフにも行きました。ただ、その後は歯をくいしばって勉強に戻ってください。辛い勉強を乗り越えて、合格できた時のあの達成感、悪くないです。人としても少し成長できた気がします。目標を明確にして、自分をコントロールできるかが鍵です。頑張ってください、応援しています。



# 戦略的に、かつ弱点補強はコツコツと。



K.T さん

勤務先：会計事務所

2015年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：82点（2014年1月／3回目）、BEC：78点（2014年8月／5回目）

REG：75点（2013年11月／3回目）、AUD：79点（2015年2月／6回目）

## Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

- (1) 業務上の必要を感じた。
- (2) (1)に関連し、米国公認会計士を取得することにより（自分自身の）付加価値を高めたかった。
- (3) (2)とほぼ同じような意味ですが、仕事上の“マンネリ？”を打破すべく自己を研鑽したかった。
- (4) 何より、日本国内での受験が可能になったこと。

## Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：公認会計士

英語知識：TOEIC®TEST 850点前後

## Q3 TACをお選びいただいた理由は？

公認会計士2次試験の受験の際にもTACを受講しており、私の中ではTACメソッド(ゴール地点(合格)から、スタート地点を俯瞰するアプローチ)と呼んでいるが、このTACメソッドに対する信頼と安心感から、今回も迷わずにTACに決めました。

## Q4 TACの講座でよかったところ(講師、教材、カリキュラムなど)

- (1) 講師陣が充実している点。どの先生も教え方がわかりやすい。特筆すべきは、REGの内田先生作成の「直前対策まとめ」は「圧巻」で、私にとってもゼロスタートで、苦手意識をもったREGが合格最低点ながら最初のCREDITになったのも、このおかげだと思います。
- (2) メールでのレスポンスが早く親切であった。
- (3) TACメソッドとBecker(オンライン含む)のコラボレーションは、私にとっては、最適な組み合わせだった。他社(他校)の教材も補助的に使用したが、TACはテキストも使いやすく、Becker(オンライン)は本試験により近いと感じた。
- (4) 合格体験記にさまざまな方が紹介されており、モチベーションが下がった時に自分を励ましたり、自分に合った勉強方法を探す良いきっかけとなった。

## Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

- (1) Becker上級コース(DVD通信講座)
- (2) 学習期間：2年6ヶ月(2012年8月～2015年1月)

## Q6 合格までの学習法(全般的なこと/科目別)

- (1) 勉強時間は早朝の1.5時間、昼休みの約30分、帰宅後の1時間に週末土日合計10～15時間(平均週25～30時間)。
- (2) 昼休みは、BeckerのMC問題集の必要ページまたはAICPAリリース問題(打ち出しコピー)を持参して、これを解いた。
- (3) 6か月(長くて1年)で全科目取得を考えたので、勉強開始直後(2012年8月)に全科目の上級コースと総まとめコースのDVDを早送り履修した。その後は、ひたすら、BeckerのMCを解いて、わからないところはBeckerテキストに戻り、理解を深めた。間違った問題についてテキストに戻るときは、その問題の該当箇所だけでなく、周辺・前後のページ・行をなるべく読むようにした(理由：本試験では、同様又は似た論点が手を変え品を変え出てくるようなので、それに備えた)。
- (4) MC問題は、正解○、正解しただけでまたま合っただけで腑に落ちていない問題△、不正解×に分けておいた。試験直前の見直し時間の短縮につなげた。実際は、REG、FAR、BECについては、○と×にしか分けていなかったが、田中先生の講義での説明もあり、△の重要性に気づき、AUD6回目の際は、△の分類を加え、(△についてもテキストに戻るの)より深い理解につながった。

- (5) DVD(上級コース及び総まとめコース)の聴講・履修は、REG、FAR、BECについては、最初の一回だけの履修だったが、もっとも時間のかかったAUDについては、6回目受験の際は、残された1科目で時間もあり、再度(2回目)履修した。

- (6) 試験結果通知に記載される弱点分野の学習時間を意識的に増やし、補強につとめた。
- (7) TBS・Sim問題は、多くの人が言っているように、本試験直前ではなく、適宜(例えば、章ごとに)実施したほうがよい。
- (8) 時間配分は、非常に重要で、TACではTBS/WCの時間としてFAR105分、BEC45分、REG90分、AUD105分を推奨しているが、個人的にはさらに3～5分追加して、MCが終了したら、是非TBS/WCの解答を始める前に、どういう問題が出題されているかを一通り確認することをお勧めします。これは、TBS/WCの中での時間配分の決定に有効であることや順調に解いていると思ったら、次の問題が長文を読む必要等で時間がかかる場合に結果的にそれまでの問題に時間をかけすぎていたことで、全く解か(け)ない問題(結果、部分点追加のチャンスを逃す)が残ってしまうということが一度ならずあった経験からです。

- (9) MC問題は全科目ともBecker問題集とAICPAリリース問題過去5年分を繰り返し解いた。
- (10) 意味がわからない(わかりづらいex.二重否定文など)英文は、PCの翻訳機能を使うなどで、腑に落ちるまで理解に努めた。
- (11) 全科目共通(使用した教材)

- MC対策：Becker問題集とAICPAリリース問題各々3回転(AUDについては4回転で正答率9割以上とした)  
SIM・TBS対策：Beckerオンラインの問題と直前対策教材

- (12) WC  
Beckerオンライン問題やWC対策問題から代表的な約20問を抽出して、シンプルな構成にして、なるべくポイントを整理し、平易な英語に置き換えかつ各問で共通の用語・文章は統一(ex. segregation of dutiesを直接問う問題の解答はinternal controlを問う問題になるべく同じ英文(フレーズ)を借用する)し、各問題の解答を出来るだけA4一枚にまとめた。かつ試験直前にそのうちさらに厳選した10問程度については、音読して覚えるようにした。

しかし、合格した本試験でも、各問題につき、出だしと締め以外の本文は精々5～10行しか書けませんでした。BECも5回目78点ぎりぎり合格の推移(69点→73点→69点→72点→78点)を踏まえWCで一点でも多く加点したいと考えました。

## Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初の受験は、FARで、2012年11月であったが、パスポートを忘れて受験会場入りしてしまい、あわてて取りに帰りタクシー等を使いぎりぎり間に合ったが、冷汗をかいた。

## Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

- (1) 人によっては、全4科目を短期間で取得する方もいます。私の場合も、ある意味安易に6か月から1年での全科目の取得を考えて勉強をスタートしましたが、結果的に2年半かかってしまいました。年齢のことや仕事との両立のことを持ち出すまでもなく、個人差があるの何とも言えませんが、相応の難易度を持った試験だと思えます。
- (2) 公認会計士の本来業務である監査業務の社会的な有用性・需要はますます高まっていくと思います。併せてIFRSの導入や経済のグローバル化の中で、日本国内の監査の現場でもUSCPAの活躍の場は広がっていくと思います。
- (3) 私の体験談の一部でもみなさんの参考になればと思い筆をとりました。

特に働きながらの勉強は、大変です。モチベーションの維持と体調管理に気をつけて、一日も早く合格することをお祈りします。





## 学習を続ければ必ず合格出来ると思います！

R.N さん

2009年 大学卒  
勤務先：金融機関（経理部所属）

2015年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）  
FAR：83点（2014年7月／1回目）、BEC：81点（2014年8月／1回目）  
REG：89点（2014年11月／1回目）、AUD：91点（2015年2月／1回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

経理部に所属しており、今後のキャリアを考えた時にU.S.CPA試験に合格しておいた方がより良いのではないかと考えたためです。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級  
英語知識：TOEIC®TEST 935点、仕事で使う程度

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

受験のために不足している会計単位取得を含めた総費用が、他社と比較して安かったことや、本試験と同じ形式の問題演習が出来るBeckerを利用出来たことがTACを選んだ理由です。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方々がとてもユニークで、楽しんで講義を聞いたことがとても良かったです。Beckerのソフトウェアトラブルがあった時や試験について質問があった時、また、受験に際しての相談に至るまで、TACの皆様が迅速に親身に対応して頂けたことが非常に助かりました。また、Beckerにより本試験と同形式で練習出来たので、本試験であまり緊張せず問題に臨めたこともとても良かったです。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信。始めは通学していましたが、仕事が忙しくなったこと等により通学が出来なくなり、通信で学習しました。学習期間は1年半。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全般的なこと）

まずDVDを全部聞き、その後TACの問題集を1周、その後REG以外はBeckerに取り組みました。試験が近くなってから、AICPA Release問題直近4,5年分とBeckerのFinal Examを解き、TACのテキストと問題集を復習しました。

（科目別）

- ・FAR：最初に受験した科目であったことや、範囲がとても広がったため、約半年かかってしまい、一番時間を要してしまいました。受験まで勉強が間に合わず受験日をずらしてしまいましたが、一番しっかり学習したと思います。Beckerは2週しました。本番では最初のテストレットがとても簡単に感じ、油断をしてしまい、少しでも分からない問題を解くのに時間をかけてしまいました。2枚目のテストレットの問題が長文になり、難易度がかなり上がり、それ以降の問題も時間が足りず、全然出来ませんでした。完全に不合格だと思い、落ち込んで帰りましたが、合格していました。全然出来ないと感じて合格することがある試験なので、最後まで諦めずに取り組んで下さい。また、テストレットが簡単であれば、あまり時間をかけ過ぎず、それ以降のテストレットに時間を割り当てた方が良かったと思っています。

- ・BEC：NTSの期限のため、FAR受験から約1ヶ月しかなかったのですが、Beckerを2,3問飛ばして解き、全体的に網羅することを心掛けました。全く出来ないという分野を作らないことに注意して取り組みました。
- ・REG：TAXは馴染みがなく、最初は講義に全然ついていけませんでしたが、TACの問題集を解きながら、段々と論点が分かり、理解出来るようになっていきました。最終的には内田先生の直対を暗記し、4科目で一番自信を持って試験に臨めました。Business LawはA論点を中心に基本をおさえることに注力しました。
- ・AUD：内容的には理解しやすく、スムーズに学習出来ました。Auditレポートのタイプは自分でExcelにまとめて、暗記しました。Beckerを解くことにより出題のポイントをおさえるようにしました。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続で特に問題はありませんでした。

FARとAUDは4時間と長丁場の試験なので、一度は休憩をとった方が良いかと思います。FARは休憩をとらず、お腹が減ってしまいましたが、AUDは一度休憩をとって甘いものを食べて飲み物を飲み、最後まで頭が働いて良かったと思います。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

試験範囲が広く、最初のFAR受験までに挫折しそうになりましたが、受験すれば必ず合格出来るという草野先生の言葉を信じ、学習を続け受験しに行きました。諦めなければ必ず合格出来る試験だと思いますので、長期間の学習で辛い時もあるかと思いますが、諦めずに頑張ってください！



## 東南アジアからUSCPAを目指して

### 福崎 大輔 さん

1984年9月生まれ  
東京外国語大学イタリア語科 2008年卒業  
勤務先：鉱業

2015年1月 USCPA試験合格（アラスカ州）  
FAR：81点（2014年7月／2回目）、BEC：（2014年5月／1回目）  
REG：88点（2015年1月／2回目）、AUD：88点（2015年1月／2回目）

#### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私の海外駐在に帯同している専業主婦の妻が2013年11月にUSCPA全科目同時一発合格をしました。その頃に彼女の教科書（BECだったと思いますが）をこそっと横からみたところ、経理とは直接的な関係の多くない自分の担当業務（海外プロジェクト推進・運営業務）ではあるものの、マネジメント的な観点から知識のつながりが意識できるおもしろそうな内容でしたので、軽い気持ちではじめてみました。もしかしたら仕事後に漫然と晩酌を繰り返す日々への焦燥感のようなものが潜在意識としてあったのかもしれない。

#### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力圏は短期留学の経験のみでTOEIC 900点超、会計知識はゼロでした。

#### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

前述のとおり先に合格した妻が、他の学校と入念に比較した結果でTACを選んでおり、学習結果にも満足しているとのことでしたので、私もその選択に従いました。そのおかげで学校選びにかかる時間はゼロで、その分を勉強にあてられたので、良かったと思います。

#### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講義・教科書の内容が網羅的かつ効率的でした。また、講義の構成も入念に組み立てられた背景を感じることができました。また、申し込み等にあって事務局の皆様のレスポンスの早さも非常に心強く思いました。

#### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

海外在住のため通信です。学習期間は2013年11月から1年1ヶ月程度、総勉強時間は記録していませんが、約1,000時間程度と記憶しています。（学習開始時に認定単位がほとんどなかったため、ブラッドリー大学の認定試験に費やした時間や期間もそれぞれ含めます）

#### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

海外駐在中で業務が忙しい時期が多いので、妻のような全科目同時一発合格はまず諦め、受験のための帰国回数を限定しつつ現実的にムリの無い範囲での短期合格を目指して、最初に4科目を2グループ（FAR&BECとAUD&REG）に分けて取り組みました。学習方法については反省点が多く、全科目同じようなアプローチでしたが、まず一通り全てのDVDと教科書を通した後に練習問題に取り組みました。これは結果として、DVDを見終えるということが目的になってしまったので、やはり講師の方のアドバイスに従い、各章毎に練習問題にあたることを強くお勧めします。また仕事でもメモをとる習慣が無いので、USCPAの勉強でもノートを全く作らず、教科書への書き込みもほとんどしなかったのですが、これも失敗だったと思います。USCPAは学習範囲が広いので、少なくともマーカー線などを

教科書に引いて自分なりに記憶の定着を図る工夫をしていれば、もう少し早めに合格出来たかと反省しています。

私の場合、平日は仕事があってあまり勉強する時間がとれないので、休日に12時間ほど勉強していましたが、少ない時間でも良いので平日も勉強する癖をつけて、毎日学習することが記憶の定着には非常に重要な要素かと思えます。

#### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

海外駐在中ということもあって、ブラッドリーや本試験の受験の都度に帰国する必要がありました。かといって仕事も忙しいので、必要最低限のフライト回数かつ1泊or 2泊3日で旅程をスケジュールリングする必要があり、精神衛生上良くなかった気もします。

特にFARとREGを受験するために帰国した際は、せっかくの日本をenjoyしようと思い、試験前日（日本到着日）に寿司屋さんでサバや鰯の刺身を大量に摂取したところ、夜中に急激な痛みを覚え、ホテルから近い大学病院の救急で見てもらった結果、アニサキスという食中毒にかかってしまったことがありました。その時は一睡も出来ずふらふらになりつつ痛み止めを飲んで（諦めず受験し）運よく合格できましたが、草野先生も仰るとおり、直前の食事も含めた体調管理は本当に必須であると実感しました。

一方で、スケジュール優先で学習が不十分と自認したままで受験したREGは74点で落ちたので、やはり自分の理解度に納得したうえで受験することが合格への近道だと思います。74点で落ちたときは、マルチプルはほぼ全てstrongerだったものの、simulationはおそらく1問も正解できていなかったもので、74点は75点以上の合格点とはほど遠い点数だと思います。

また、試験勉強中の2014年秋に長女を授かったこともあり、当初予定より受験スケジュールを遅らせざるを得ず、NTSが失効してしまいました。そこで、自分でNASBAにメールをして理由を説明のうえ有効期間延長のアピールをしたところ、数日後にあっさり半年ほど期間延長を認められたので、費用の面で助かりました。同じようなシチュエーションにある方はどんどんアピールされるべきかと思います。

#### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

私はそもそも軽い気持ちで学習をはじめたこともあって、特に最初の数ヶ月は試験勉強のボリュームと難易度に面くらって本当に続けられるのか心配になりましたが、学習を終えてみると日々の仕事に活用できる会計知識を網羅的かつ体系的に学ぶことができたので、非常に満足感が高いです。実際にUSCPAに取り組んでいる皆様ならお分かりかと思いますが、巷で言われるほど簡単な試験ではありませんし、勉強期間が長期に及ぶので、（特に落ちたときは）モチベーションの維持はもちろん、仕事をしている方はそれとの両立を継続するのが大変かと思いますが、合格後の自分を強くイメージし、諦めずに頑張ってください。



## 送付されてくる教材を積み上げるとその高さは、なるほど千時間は必要です。

R.H さん

1970年8月生まれ  
勤務先：外資系メーカー

2015年1月 USCPA試験合格（ニューハンブシャー州）  
FAR：78点（2014年5月／3回目）、BEC：79点（2013年10月／1回目）  
REG：80点（2014年5月／2回目）、AUD：79点（2015年1月／4回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

米国在住の日本人の友人がCPAを保有しており以前から興味があったが、一番のきっかけは、日本で受験可能であることを知ったこと。また当時仕事が一段落ついた時でもあり勤務しながら受験が可能と考えたため。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：会計科目を複数取得していました。  
英語知識：英検一級

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

合格体験記から実績がある印象を受けたことと、また無料診断のアドバイスが丁寧だったため。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師陣が充実している点。草野先生の分かり易い教え方や面白いトーク、内田先生の説明資料や直前対策まとめには非常に役に立ちました。受験手続き等のマニュアルも充実していて全体的に非常にスムーズにきました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信講座でしたが極力通学もするようにしていました。  
学習期間：1年10ヶ月（2013年4月～2015年1月）

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

[全般]

追加単位が不要だったので、講義のスケジュールに合わせて、受験していくように計画。土曜日に渋谷校に通学して、テスト勉強等で通学できなかったところは日曜日にDVDにてキャッチアップしていました。各科目共通で、テスト前にはSimulation対策&総まとめ講義をDVDとテキストで学習しました。

Becker Onlineではできなかった問題はチェックを入れて、フォローアップをしていました。またWi-Fiを使用できる環境では出張先でもiPad MiniでMCを解いていました。

[FAR]

2013年4月に受講を開始し、FAR 1及び2の時には通学して草野先生の学習ポイントを押さえるようにしました。7月末から始まったFAR3はDVDによる学習だったので、8月末の一回目の受験は、（74点でしたが）期間的に非常に厳しかったです。3回目のテスト前にはBecker Online問題を二周し、漸く合格しました。

[BEC]

BECに関してはTACテキストと問題集のみを学習し、Written Communication対策は過去問の数パターンをノートに書いて、ポイントを記憶するようにしました。

[REG]

内田先生のTAX授業は渋谷校に通学し、杉浦先生のBLはDVDでキャッチアップしました。TAXは内田先生の直前対策まとめに自分で書き込みを加えて理解して記憶するようにしました。BLは杉浦先生のテキストにある参照問題番号を解きながら理解力を深めました。送付されてくる膨大な教材の中にBeckerの切り離し式実践トレーニング集がありますが、このBLの参照問題の時のみ使用しました。

[AUD]

2014年6月迄にAUD以外の他の科目は全てクリアしていましたので、2014年7月からの半年間はこのAUDのみの勉強でした。不合格するところまでウィークポイントかを指摘されるので、テスト結果でのカテゴリーと自分が勉強している内容のカテゴリーを比較できるように学習内容の目次（Directory）を理解してどこに何の学習項目があるかを理解できるようになるまで勉強しました。具体的には自分のノートにまず目次を作成し、Beckerで回答を間違えている問題のポイントをノートに書き込んでいきました。最終的には内田先生の「TAX直前対策まとめ」のAUDバージョンを自分なりに作成することを目指しました。4回目のテスト前には1,400問以上もあるProgress Testを全て網羅し、平日も100問解き正解率を9割以上まで上げていきました。

### Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

申請から受験まで特に問題なく手続を進められました。試験の前半戦は横浜のプロメトリックセンターで受験しており、途中から御茶ノ水ソラシティテストセンターになりましたが特に支障はなかったです。

### Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACから送付されてくる教材を積み上げて高さを計るとなんと60センチ以上あります。このうち一部を除きほとんど勉強しなかったBeckerの英語のテキストと切り離し式のトレーニング集を除いても40センチあります。これらのテキストと問題集を満遍なく包括的に学習していくのでかなりの覚悟が必要です。また不合格の通知は精神的にもインパクトがあります。US CPA受験を勝ち抜くにはTAC+Beckerをそして自分を信じて、最後までやり抜く気概を持つことが重要だと思います。





# Change the Life, Change the Organization, Change the World!

## 影山 豪 さん

1985年生まれ

日本大学 経済学部 2008年卒

勤務先： 商社（財務・経理）

2015年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：79点（2014年7月／1回目）、BEC：78点（2015年5月／1回目）

REG：81点（2014年11月／1回目）、AUD：76点（2015年8月／3回目）

### Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

自分の人生を変えたいと思ったことが一番のきっかけです。大学卒業後、夢や目標があるわけではなく、ただなんとなく働いて、何年間も自由に生きてきました。

ある出来事をきっかけに、自分の人生に本気で向き合い考えるようになり、新たなスタートを切ろうと思い行動しましたが、そこには大きな壁があり、厳しい現実を痛感しました。はじめて人生の壁にぶつかりました。そんな状況を打開し、自分の人生を変えるには、相応の努力と、強い意志と覚悟が必要と考えました。

CPA学習の前に、CIA（公認内部監査人）や簿記等を学習してきましたが、もっと難易度の高く魅力的なタイトルを取得しなければ、自分の経験値ではビジネスの世界では通用しないと考え、USCPA、MBA、日本の公認会計士・税理士、海外留学等を選択肢として検討しました。その中で働きながら取得できるUSCPAに投資することが、今の自分の環境や状況に一番合致し有効だと考え、TACの門を叩きました。

### Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級（実務経験なし）

英語知識：TOEIC®TEST 550点

### Q3 TACをお選びいただいた理由は？

①教材のボリューム。

（別の資格で他校に通っていたことがありましたが、その時に感じたのが、行き詰まった際に教材や問題が多い方が、結果的には自分には合っていると考えていた為。）

②BECKERと提携していたこと。

### Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

① 講師陣

② 教材のボリューム（BECKERや直前対策まとめ等）

草野先生、内田先生、杉浦先生、小泉先生、田中先生、渡辺先生、阿辺先生とわかりやすい丁寧な解説で本当にお世話になりました。またAUDITで質問した際に、畠山先生、廣安先生にもお世話になりました。

TAX・NPAと内田先生のインパクトのある講義と直対は突出していて、あれだけのボリュームを凝縮してまとめてあり、直対がなければ合格できなかったです。杉浦先生のBusiness lawも重要論点をA・Bとランク分けしていただいたことも非常に助かりました。また小泉先生の受講生への気遣いがなければ通学しること自体難しかったのではないかと思います。

草野先生には、会計を超えた人生観のようなものを教えていただいたと思います。自分が目指したい会計屋ってこういう人だなと感じました。学習で辛い時や悩んだ時に、何度も草野先生の講義を聞き直しましたし、今でもたまに聴いています(笑)。台風の日に講義があった際に、“今日来た人達は必ず受かります”と言っていたことも本当だったなと実感しています(笑)。いつかどこかで草野先生にお会いした時には、いい意味で“勝負”ができるようになりたいと思っています。

先生達には色々なことを教えていただき感謝しています。本当に有難うございました。

### Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信。（講義を受ける為、通学にて学習。行けなかった日や何度も聴きたい講義をDVDでフォローできるようにしました。）

学習期間 2年間。

### Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

【全般】

講義⇒TAC問題集⇒単位認定試験⇒直前対策⇒TAC問題集⇒SIMULATION（記述問題対策）⇒BECKER⇒FINAL EXAM（模擬試験）⇒AICPA過去問（最低5年分）

上記のサイクルをベースに、○×△と問題に付けながらTAC問題集と

BECKERを3回転。

頭に本冊を作る為に、contentsは頻繁に確認していました。

講義を一通り早く終わらせる為に、土日2日間で最初の何ヶ月間は通学しました。

とにかく仕事以外の全ての時間を勉強に費やし、出勤前後で15分～30分時間を捻出できれば、カフェで勉強する等、勉強できる環境の為に小金も費やしました。仕事が早く終わり、3時間くらいできた日もあれば、逆に時間は確保できたにも関わらず、カフェの机で寝てしまい、結果30分くらいできない日もありました。早起きして、勉強する習慣をつけようとしたが、早起きが苦手で中々習慣化しませんでしたので、結局は仕事後にする方が多かったです。

iPhoneでMCを解いたり、直対を眺めたり、講義や自分で録音した各種Audit report（監査報告書）を聴いたり、電車等の隙間時間も何かできることをやりました。また、ratios、FARのhierarchy、audit reportを部屋やトイレの壁に貼って毎日嫌でも見られるようにしました。

会社の昼休みは勉強しませんでした。家に帰るとリラックスしてしまうので、ほとんどはカフェや図書館等で勉強していました。

【勉強時間】平日1.5時間～3時間、土日6～12時間。

試験直前期、早起き出来た時、仕事が早く上がった時等まちまちでしたが、平日3時間・土日10時間を目標にしました。やりたいことは極力我慢しましたが、テストまでのスケジュールと進捗を見て遊びに行きました。それでも隙間時間ができると思い、勉強道具は常に携帯していました。

【科目別】※各科目とも75点以上で合格となります。

①FAR79（7月）⇒②REG81（11月）⇒③AUD72（2月）⇒④AUD72（5月）⇒⑤BEC78（5月）⇒⑥AUD76（8月）

各科目とも、受験をはじめる時には、講義を受けてから1年経過していたので、直対講義で全体をREVIEWするところからはじめました。

① FAR：全ての科目の基礎となるので、この科目を突破できれば他も駄目だと思い1番はじめに受験しました。FA(Financial Accounting)とFR(Financial Reporting)の違いは何かを常に頭に入れて、自分が今どこを勉強しているのかcontentsを確認しながら勉強しました。

ボリュームの多さから、BECKERは手を付けず、TAC教材、直対、SIM、FINAL EXAM、AICPA過去問をやりました。SIMのみBeckerに着手。Beckerをやらない分、TAC問題集を4～5回転くらい回しました。NPAは内田先生が言う通り、得点源になるので、×△は7回転くらいしました。

TAC教材だけで合格できますので、BECKERはやらなくて大丈夫です。時間を測る為に、FINAL EXAMをやり、結果は合格圏内ではなかったですが、あまり気にしませんでした。

本番の試験では、草野先生が“よっぽど勉強不足でない限り、落ちる人はタイムマネジメントで失敗する”と強調していたにも関わらず、見事にタイムマネジメントで失敗しました。テストレット1は、簡単に順調でしたが、テストレット2・3が物凄く難しくなり、時間をかけすぎてしまい、TBS（記述問題）に残された時間が40分しかなく、トイレも我慢し、とにかく解ける問題をざっと解きました。リサーチ問題含め白紙で出した答案も2、3題ありました。帰り道はまた一からだと、落ち込みながら帰りました。

しかし、結果は79点でpass。喜びよりもなぜ合格したのか疑問でしたが、最後まで諦めない気持ちと、落としてはいけない論点はできたのかなと思いました。

MCには時間をかけすぎず、TBSに時間を割く事ができれば、解ける問題もあったので、もっと点数も良かったのかなと思います。これから受験する方はTBSへの時間を確保する為に、MCには時間をかけすぎない方がいいです。しかし私のようなパターンもありますので、TBSにかける時間がなくても最後まで諦めないでほしいと思います。

② REG：FARの次に受験した科目です。ボリュームの多い科目を潰せば、後が楽になると考え、BECよりも先に受験しました。FARと同様BECKERには着手せず、SIMも内田先生が厳選したもののだけをやりました。厳選MCは4～5回転くらい回しました。Business Lawは杉浦先生のAランクとしたものがTAC問題集でほとんど編集されていますので、それを3回転くらいとAICPAの過去問をやりました。

REGもTAC教材のみで合格できますので、BECKERはやらなくても大丈夫です。

本番の試験は、FARの時ほど時間配分を失敗するということはありませんでしたが、MCはmedium⇒difficult⇒difficultで、TBSはリサーチ問題含め、計2題は白紙で済みました。手応えは、微妙な感じでしたが、passできました。

FARと同じくボリュームが多いですが、内田先生と杉浦先生を信じて、学習すれば必ず合格できる科目です。

- ③ AUD(1回目): 1番英語力が問われる科目と言われていましたが、BECのWritten Communicationの対策にもなると考え、3番目に受けました。AUDで英語力が付けば、英語が得意ではない私でも、少しは楽になるかなと考えたからです。

直対、TAC、BECKERを3回転、FINAL EXAM、AICPA過去問を解きました。Reportの雛形は小泉先生がくれたreport集を読み、なんとなく穴埋めができる程度しかやりませんでした。試験までの準備期間が短かったですが、一通り仕上りました。FINAL EXAMの結果も70点台で、BECKERがこの点数ならば大丈夫だろうと思い受験しました。

本番は、MCはそこまで難しくなかったですが、TBSへの時間が60分強しか取れず、難しい問題が出題され、解けそうなReportの雛形も記憶が曖昧な部分を問われ、自信をもって解答できませんでした。また完全に白紙ではなかったのですが、埋めきれないものが何題ありました。

結果は72点でFail。MCはComparable、SIMはWeakerの判定でした。

- ④ AUD(2回目): 5月末にBECの受験が決まっていたのですが、記憶が新しい内に受験しようと思ひ、5月の頭に受ける事を決めました。前回の判定を受け、SIMとreportを重点的に取組みました。BECと平行して勉強していたので、MCはBECKERのランダム100問をできる限り解きました。

本番は、MCは1回目の時と違う傾向の問題が多く、時間がかかり、TBSは1回目と同じく60分ほどしかなく、山をはっていたReportの穴埋めは全くできず、1回目の時と全く同じ問題も1題出題されました。最後の2分くらいで気づいたのですが、時間がかかりそうだと感じて最後に残っていた1題がFAR絡みの簡単な仕訳の問題で、その1題の大部分がリサーチ問題を白紙で出していました。

結果は1回目と同じく72点でFail。MCはWeakerが1つ、他はStronger、SIMはWeakerの判定でした。

- ⑤ BEC: AUDのFAILで、合格する順番は変わりましたが、この科目は最後に受験しようとして通学時から考えていました。合格体験記で多くの方がこの科目で苦戦していた事、年々難化傾向にあると聞いていたこと、Written Communicationがあったことから、他の科目の勉強の過程で英語力が付けば、passしやすいかなと思ったからです。

MCはTAC、BECKERを3回転、AICPA 5年分、FINAL EXAM2回分をやり、結果は69点・65点と合格圏内ではありませんでした。

Written Communicationは、BECKERの全ての問題を自分で解答を作り、演習する時間的な余裕がなかったので、Written対策の6つと、受講生ページにUPされていた対策の3題の計9つを3回ずつタイピングして演習しました。

本番ではMCはやや難化しているかなという程度で進み、50分強をWritten Communicationに割くことができました。3題中1題は連良く対策していたものと似たようなものが出題され結論まである程度書けましたが、残り2つのうち1題は問題文の言い換えを記載し、結論まで記載したものの、文字数は少なかったです。最後の1題は時間がなくて、手出しのThis memo describes~くらいしか書けず、中度半端に終わりました。

結果は78点でPass。この科目を突破した時は、飛び上がるほど嬉しかったです。MC重視に偏らず、Written Communicationも必ず対策しなければ合格できません。導入・問題文の言い換え・メリットやデメリット・結論と基本的な構成をwritten対策で抑えれば大丈夫です。何を書いて良いかわからない問題がでた時も、最低限問題文を言い換えるくらいは書いて方がいからです。

- ⑥ AUD(3回目): 2回のFailから、もう一度TACのテキスト・問題集に戻り、基本を見直すことにしました。TAC、BECKER、SIMを3回転解き、直前期1週間くらいは△×が○になるまで解きました。この時から各種Reportの雛形を自分で音読したものを電車で聴いたりし、100%暗記はしてないですが、80~90%くらいは暗記しました。FINAL EXAMももう一度解きました。今までどの科目も本番で、リサーチ問題を含め最後まで解き終えたことがなかったので、今回はタイムマネジメントを意識しました。

試験当日はExpireの危機感もあったので、かなり不安ではありましたが、落ち着いて、とにかく全ての問題を網羅的に解くことを心掛けました。MCは今まで受けた中で一番難しく感じました。しかし時間を掛過ぎずに、解き進め、休憩も行き、TBSに110分くらい割ける理想的な状態で、TBSに臨むことができました。全然わからない問題もありましたが、リサーチ問題も含め全ての問題に解答することができました。結果は76点でpass。ぎりぎりの合格でしたが、安堵感と他にやりたかったことができる喜びを感じた瞬間でした。

AUDだけではなく全ての科目に言えることかと思いますが、本番ではタイムマネジメントが1番重要で、とにかく全ての問題を解き終えることが合格への鍵です。草野先生の言う通り、よっぽど勉強不足でない限りは、failするならばタイムマネジメントだと思います。本番ではこれさえ失敗しなければ、必ず合格できると思います。

- ⑦ 単位認定試験: 単位認定試験は合格ラインが50%なので、完璧に対策しなくても過去問をやればPassできます。私は会計単位が全然足りなかったのもありますが、単位認定試験を受け始めるタイミングがAUDの講義が始まった頃に受け始めるというスローペースでやってしまったので、最初のFARを受験するまでに1年かかってしまいました。ワシントン州ではなく追加単位が比較的少なく出願可能なアラスカ

州にすれば半年間くらい早く合格できたのかなと思います。

- ⑧ AICPA & WA ethic test (倫理試験): ライセンス申請に必要な為、9,10月に受験しました。合格点がどちらも90%以上で、open book testとはいえ難しかったです。AICPAの方は一発でPassしましたが、WA ethic testは3回目でPassしました。WAのethic testは、でる問題はワシントン州のホームページからダウンロードできるPDFからがほとんどですが、それでもわからない部分は、ネットで問題文の一部分をコピーして、ネットで検索するなどして解いてなんとかpassできました。甘く考えていると一向にPassできないのが、ethic testだと思いますので、ワシントン州でライセンス取得までを考えている方は、最後の一踏ん張りだと思って頑張ってくださいと思います。

## Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

Q6参照。

学歴審査、NTS(受験票)の取得ともに特にトラブルはなかったです。TACのガイダンスの通りやれば大丈夫です。唯一、AUDの2回目の成績レポートが届かず、中々NTSの申請ができないことがありましたが、その旨をメールでNASBAに問い合わせしたら、すぐに送ってくれました。

## Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

- ① 自分を応援してくれている人達に感謝すること。
- ② 強い意思と覚悟を持つこと。
- ③ 合格体験記。

上記3点が合格の秘訣です。

- ① 私が勉強を始めた頃は、プライベートでも上手くいかず、中々辛い時期が続きました。自分一人の力で打開していくしかないと思い、追い込んでいきましたが、それでは結局苦しいだけで、勉強も思うように捗りませんでした。いつからか、頑張っている自分を色々な人が応援し、期待してくれていることに気づき、自分の為だけでなく、応援してくれる人達の期待にも応えたいと想うようになりました。

合格を信じ応援しサポートしてくれた家族、人生の相談や息抜きに連れ出してくれた友人、USCPAの価値を理解し、応援し、時に檄を飛ばしてくれた会社の部長・課長・先輩達、研修時にお世話になった支店長や先輩達、合格へのノウハウを教えてくださいましたTACの講師陣の方々、色んな人の支えがあるからこそ、何度も自分を奮い立たせ、諦めずに最後まで取り組むことができたのかなと思います。本当に感謝しています。有難うございました。

- ② USCPAは、範囲が幅広く、勉強も長期間に渡ります。州によっては単位認定試験を受ける必要もあり、講義、単位認定試験、受験手続き、NTS、日本受験料、ライセンス取得料やethic test、継続教育(CPE)等とそれらの費用は決して安いものではなく、面倒な手続きもあり、幾度となく壁が立ちはだかります。それらの壁を乗り越える為には、本当に強い意志と覚悟が必要で、おそらく途中でドロップアウトした人もたくさんいると思います。しかし、1つずつ壁を乗り越えて行けば必ず合格できます。また、仕事でも希望の部署に行くことや、海外勤務のチャンスを掴む等、乗り越えた分だけfuture effectは大きいです。きっかけはそれぞれかと思いますが、壁に当たった時は、USCPAに挑戦すると決意した気持ちを思い出し、強い意志と覚悟を持って学習を続けて欲しいと思います。

- ③ 私はこういった体験記を書くタイプではありませんが、多くの方の合格体験記を読み、何度も救われたことがあったので、少しでも御礼奉公ができればと思いペンを執りました。合格体験記には学習方法、テストでの実体験等、たくさんの合格へのヒントが隠されています。膨大な試験範囲で、勉強時間も限られた中で、どうやって勉強を進めていかわからなくなると思います。そんな時に、合格体験記を読めば、道は開けます。

振り返ってみると、本気で目標に向かって、何かに取組んだのは久しぶりでした。試験合格後は、ゴールではなくてやっと自分の納得できるスタート地点に立てたのかなと感じています。人生を変え、組織を変え、世界を変えるには、これから先も自分を磨き、努力していく必要はあると思っています。これぞGoing concern issueかなと思います(笑)。

仕事に加えて家庭もある方は、金銭面や時間に余裕がなく大変かと思いますが、資金と時間を捻出し、強い意志と覚悟を持ち、USCPAに投資できる環境に自分が今いることは、本当に有難いことだと思い学習を続けなければ必ず合格できます。

私の体験記が、少しでも役に立てばと思います。皆様の合格を心から御祈りしております。